

# 特別支援学校における障がい種に応じた 専門性の向上と指導の充実に関する研究

## ― 自立活動指導資料（肢体不自由）の作成を通して ―

### 《補助資料目次》

【資料1】 肢体不自由教育における教員の専門性に関する調査	1
【資料2】 肢体不自由教育における教員の専門性に関する調査結果	5
【資料3】 小学部第2学年自立活動学習指導案	14
【資料4】 小学部第2学年「自立活動の指導における目標設定シート」（児童A）	21
【資料5】 小学部第2学年「自立活動の指導における目標設定シート」（児童B）	23
【資料6】 小学部第5学年自立活動学習指導案	25
【資料7】 小学部第5学年「自立活動の指導における目標設定シート」（児童A）	33
【資料8】 小学部第5学年「自立活動の指導における目標設定シート」（児童B）	35
【資料9】 小学部第5学年「自立活動の指導における目標設定シート」（児童C）	37
【資料10】 「自立活動指導資料（肢体不自由）」（試案）に関する調査	39
【資料11】 「自立活動指導資料（肢体不自由）」（試案）に関する調査結果	42

令和5年3月  
岩手県立総合教育センター  
長期研修生  
所属校 岩手県立盛岡となん支援学校  
齊藤 香子

「特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に係る研究（肢体不自由）」に係る状況等調査用紙

＜調査用紙の記入に当たってのお願い＞

●調査の回答について

この調査は、小学部、中学部、高等部の教諭、講師、非常勤講師の先生が御回答ください。

●調査結果の取扱いについて

- (1) 当該研究において調査結果を活用します。
- (2) 調査結果は、研究報告書、教育研究発表会等で公表します。
- (3) 公表に当たっては、特定の個人を識別することはありません。

●提出方法、締切り

調査用紙は、8月18日（木）までに、各学部の研究部員へ提出をお願いします。

【フェイスシート】令和4年7月末現在

所属学部	小	中	高
特別支援教育通算経験年数	年		か月
肢体不自由教育通算経験年数	年		か月
担任している学級の教育課程 (担任外の先生は、主に授業に入る学級の教育課程)	小・中・高に準ずる教育課程  知的代替の教育課程  自立活動を主とする教育課程		

## 「特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究（肢体不自由）」に係る状況等調査

この調査は、肢体不自由教育における教員の専門性の向上と指導の充実に関する研究に係る調査です。以下、研究の主旨を御理解いただき、調査への御協力をお願いいたします。

### ＜研究主題＞

#### 特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究 —自立活動指導資料（肢体不自由）の作成を通して—

この研究では、肢体不自由教育における教員の専門性についての状況等を調査し、その結果を参考として「自立活動指導資料（試案）」の作成に役立てます。そして、作成した「自立活動指導資料（試案）」を活用した授業実践を通して、教員の専門性の向上と指導の充実を図ることを目指します。

ここでは、肢体不自由教育における障がいの特性等に関する理解や幅広い知識を「教育理論」、専門的な知見を活用した個に応じた分かりやすい指導を「授業実践」として位置付け、肢体不自由教育の視点からそれぞれ整理したものを「専門性の要素」と定義しました。そして、仮として設定した専門性の要素を下表に示しました。教員の専門性は、教育理論を生かした授業実践を行い、指導の評価や改善を行いながら、更に知識を深めたり、技能を高めたりすることで向上されるものと考えます。参考文献は下段のとおりです。

肢体不自由教育における教員の専門性（仮）

		専門性の要素
肢体不自由教育の知識や技能	教育理論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由の理解 病理解・生理についての知識／認知発達の知識／言語発達の知識／運動・動作の知識／車椅子や補助具、自助具の知識</li> <li>・個別の指導計画の作成と活用に関わる知識</li> <li>・重複障がいの特性と配慮事項</li> <li>・医療的ケアに関わる知識</li> <li>・危機管理に関わる知識（健康管理、安全な介助）</li> <li>・関係機関との連携（医療機関、外部専門家）</li> <li>・将来の自立と社会参加に関わる知識（福祉施設、医療機関との連携）</li> <li>・保護者理解と連携</li> </ul>
	授業実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導の方法</li> <li>・教材教具の工夫</li> <li>・ICTの活用</li> <li>・個別の指導計画の作成と活用</li> <li>・自立活動の指導 健康の保持／心理的な安定／人間関係の形成／環境の把握／身体の動き／コミュニケーション</li> <li>・重複障がいのある児童生徒の指導</li> <li>・医療的ケアを必要とする児童生徒の指導</li> <li>・車椅子や補助具、自助具の取り扱いの指導</li> <li>・キャリア教育、進路指導</li> </ul>

#### 参考文献

- ◆文部科学省（平成 29 年）『特別支援学校幼稚園部教育要領小学部・中学部学習指導要領』
- ◆文部科学省（平成 30 年）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚園部・小学部・中学部）』
- ◆国立特別支援教育総合研究所（平成 22 年）『肢体不自由のある子どもの教育における教員の専門性の向上に関する研究』
- ◆国立特別支援教育総合研究所（令和 2 年）『特別支援教育の基礎・基本 2020』、ジアース教育新社

\* 次ページから回答をお願いします。

- 問1 仮として「教育理論」と位置付けた項目（表の上段）について伺います。  
**肢体不自由教育全体**で考えたときに、「専門性の要素」として、他に考えられるもの  
 があれば、その理由も併せて、回答欄に御記入ください。

他に考えられる専門性の要素	理由

- 問2 仮として「授業実践」と位置付けた項目（表の下段）について伺います。  
**肢体不自由教育全体**で考えたときに、「専門性の要素」として、他に考えられるもの  
 があれば、その理由も併せて、回答欄に御記入ください。

他に考えられる専門性の要素	理由

問3 これまでに、御自身が自立活動の指導を行う上で、悩んだり、難しさを感じたりしたことを具体的に御記入ください。

例：実態把握、目標設定、指導内容、支援方法、評価、単元計画 等

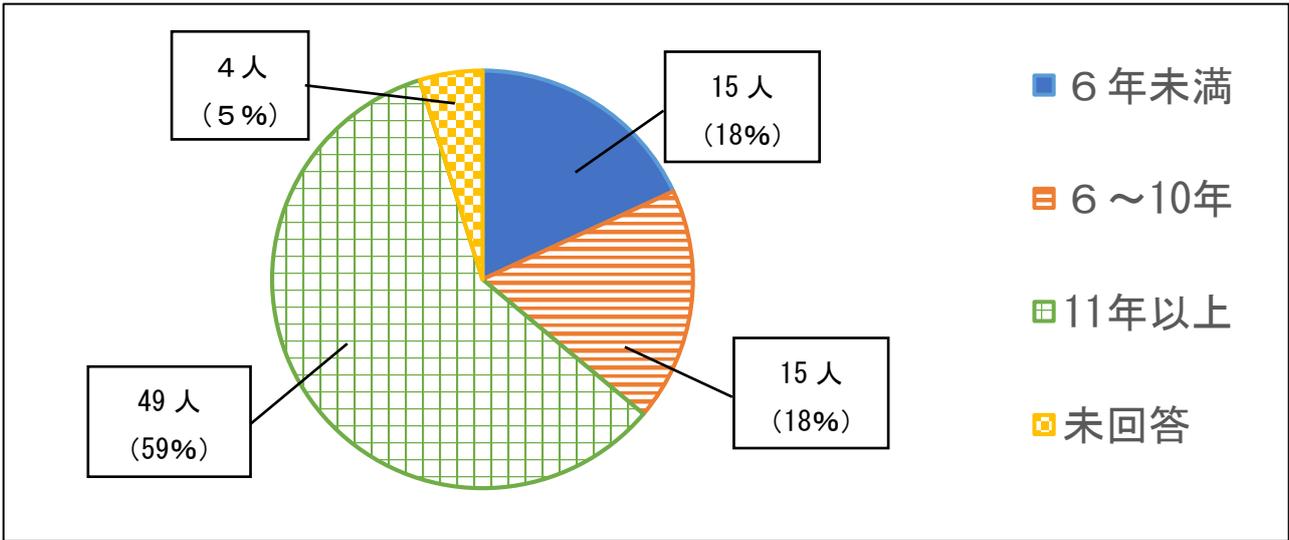
問4 肢体不自由教育における教員の専門性の向上と指導の充実のために、今後肢体不自由教育全体（学校全体）で必要だと考えることを御記入ください。

調査は以上です。お忙しい中、御協力ありがとうございました。

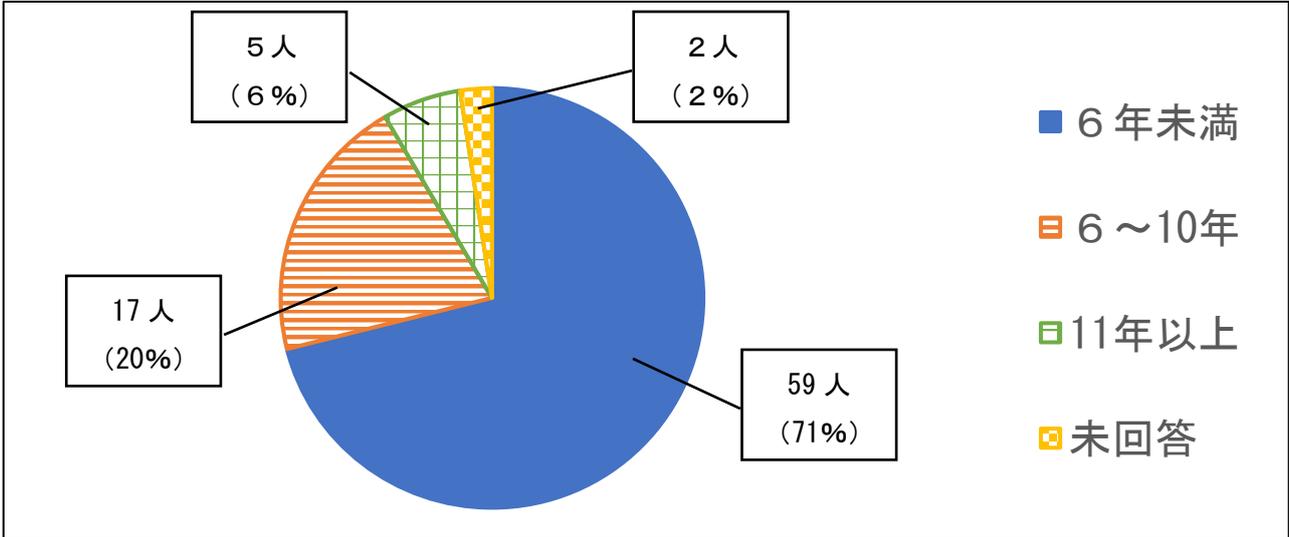
【資料2】肢体不自由教育における教員の専門性に関する調査結果

【フェイスシート】

ア 特別支援教育通算経験年数 (n=83)



イ 肢体不自由教育通算経験年数 (n=83)



ウ 担当する児童生徒の実態 (教育課程) (n=83)

小・中・高に準ずる	知的代替	自立活動を主とする	その他	未回答
6人	26人	46人	4人	1人

【質問項目】

問1 仮として「教育理論」と位置付けた項目について、肢体不自由教育全体で考えたときに「専門性の要素」として、他に考えられるものとその理由 (n=19) (原文ママ)

専門性の要素	理由
・自立活動について	・6区分をどのように授業に生かしていくのか。
・摂食指導についての知識	・課題の多い児童生徒が大半のため。
・摂食に関する知識	・となんで一番大事ではないかと思われるくらい大切な知識だと思う。
・摂食・嚥下について(どこかにあてはまるかもしれないけど)	・発達段階に応じた支援方法を学んだほうがよいのでは？
・地域社会との連携	・自立した生活を送る場合、福祉施設、医療機関だけでないと思う。ボランティア等、看護してくれる人たちとのつながりとか。
・感覚統合、視覚、聴覚、発達障害	・脳の障がいで広範囲に関連がある。
・関係機関との連携(医療機関、外部専門家)←デイサービスの追加	・放課後等デイサービスとの連携について追加。現在はあずかるだけでなく、いろいろなサービスが提供されている(リハビリなど)。
・行政機関との連携(家庭生活に関わる知識?)	・各種手帳や手当や支援等を知ること、その子の生活が豊かになったり、保護者さんを支える手立てになったりすることがあるから。
・基礎感覚(触覚、固有覚、平衡感覚)についての知識	・重度のお子さんの発達保障を考えるとときや関わり方にとってもヒントになるので。
・コミュニケーションの基礎的能力に関すること/コミュニケーション手段の選択と活用(個別の指導計画の作成と活用に関わる知識に含まれるかもしれませんが)	・音声言語の表出が困難である児童生徒に対して、子どもの将来の生活を視野に入れて取り組む必要がある。
・余暇の支援に関わる知識(将来の自立と社会参加に含まれるかもしれませんが)	・学校卒業後に余暇を見つけるのではなく、学校に在学しているうちに保護者と情報を共有していく必要がある。
・姿勢(ポジショニング)とシーティングについて、写真(イラスト)入りで説明されているといひです。	・本校の弱い部分である。「自立活動の手引き」p.12~15に当たるものです。クッション等、個人で準備する物と学校で準備する物とははっきりしていないし、個人で準備できない場合とか、様々な問題がある。なんとかしなければならないです。(身体が痛いまま、長時間の学習をさせている人もいるということです。)
・発達年齢に応じた心のケア	・肢体不自由ならではの、他人からの視線や介助時の不安など、中～高生にかけてはでてくるのではないかと考えたため。(自立活動、個別面談等での聞き取りが必要か?)
・生活の質を高めるための実践(QOL)	・自分でできる、できた事を増やしてあげたい。そのことが喜びにつながり、笑顔があふれる生き方をさぐっていききたい。
・(正しい)姿勢	・生きていく上で健康に欠かせないこと。子どもにとって正しい姿勢があって学習に向かう準備ができる。
・将来の自立と社会参加に関わる知識に入ると思うが…障害福祉サービスの内容や行政との連携	・高等部の担任になった時、実習や卒業後、サービスを利用する際に必要となる知識だと思う。
・重度の児童生徒の心理学	・どんなに障がいが重くても心はあるので、心を育てる教育をしていきたい。そのためには心理を学ぶことがあればよいと思いました。
・肢体不自由児の心理	・基礎理論に入っているかと思います。
・肢体不自由児の障がい認識	・児童生徒自身の障がいの理解について支援(指導)が必要。
・児童生徒の実態把握の必要性	・教育を行うために、その子の目標はどこなのかを判断するために必要。また、指導計画の作成、活用する際に大事。
・摂食に関する知識	・本校に勤務してみて大切だと思ったからです。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・救命救急に関する知識</li> <li>・排せつに関する知識</li> <li>・保護者理解に関わって、対応が困難な保護者との関わりについて</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・視知覚について（認知発達や運動、動作の項目の中で取り扱う予定であったのでしたら大丈夫です）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視知覚障害について、メカニズム、症状、支援方法について具体的に知りたい。（文献にも載っているが抽象的であり、具体的にイメージができない）</li> </ul>

**問2** 仮として「授業実践」と位置付けた項目について、肢体不自由教育全体で考えたときに「専門性の要素」として、他に考えられるものとその理由（n=17）（原文ママ）

専門性の要素	理由
・余暇の充実のための指導	・社会に出た時、働くだけでなく自分の好きなこと、趣味、熱中できるものを学校生活の中で見つけることができると、卒業後の生活が豊かになる。スポーツをするのも観戦するのも学校の体育で興味をもち、卒業後も生き生きと働いている姿を見たことがあるため。
・摂食指導	・食形態や食具など、安全な摂食指導を毎日実践する必要があるため。
・摂食に関する指導	・肢体不自由のある児童生徒にとって、「食べる機能の発達」を促すことができるようにすることが、重要な専門性の一つと考えるから。
・摂食の支援について	・バンゲード法など、摂食指導に重要だから。 ・本校に来てから学んだので。
・地域社会との連携	・本校に来てから学んだので。 ・余暇の過ごし方とか。
・適切な実態把握	・適切な実態把握があつてこそその授業実践だと思います。実態把握では、特性や発達段階等の他に、特に児童生徒の興味関心、得意なことを把握し、授業づくりに活かしていけたらと思います。
・指導計画の作成及び指導案の作成	・単元・題材を通して、どのような活動を展開していくのかを企画する力が必要だと思います。また、指導案を作成することで、単元・題材の設定理由、学習活動に対する児童生徒へ願う姿などを言語化することも大切だと思います。そして、児童生徒が生き生きと自分から取り組む活動を展開する力も必要だと思います。
・授業力	・授業を展開する力。児童生徒を引き付ける授業の進め方をする力。
・OT（作業療法）、PT（理学療法）、ST（摂食指導、コミュニケーション）、精神ケア、呼吸ケア、カウンセリング	・生命維持、機能維持
・肢体不自由を有する児童生徒の理解を促す指導	・交流籍校でよりよい交流をするためには、知ってもらい考えてもらえるよう促すことも必要だと感じたから。
・訪問教育、院内教育	・様々な理由で、学校ではない場所で学習している子がいる。学校でなくとも環境を整える、学びの場を作ることはものすごく専門性や必要なことだと思う。
・摂食指導について	（記載無し）
・肢体不自由の理解と合わせて運動・動作、姿勢などについて	・日々の生活の中で子どもたちが身体に負担なく過ごすために必要である。
・教材教具の工夫に「スイッチの工夫」（つなぎ方）を入れてほしい。	・私のように機械（電気・電子）に弱い方でも、ボカ（ステップバイステップ）等で電化製品（ミキサー、ゲーム等）を動かせるようになれば良いと思った。
・医療、理学療法、リハビリ等の身体の動きを取り入れ連携（共に）していく実践。常に各現場（実践している）を見て、聞いて、安定した日々を過ごせる様にしていく。	・重い子（障がい）に対しての身体的接触が多く、生活していく上で大変だと思う事が多い。その様な事を楽にしてあげ、楽な動きを自分で改善できる（少しでも）、できたという喜びを共感したい。

・排せつ（紙オムツの当て方）	・生きていく上で必要な事。失敗すると本人も親も教員もがっかりしてしまう。
・（正しい）姿勢	・生きていく上で健康に欠かせない事。子どもにとって正しい姿勢があつて学習に向かう準備ができる。
・介助の仕方	・車イスへの移乗で身体に負担がかかる。
・摂食	・生きていく上で必要な事。
・他にもではないが、「ICT活用」は「教材教具の工夫」に含まれるのでは？	
・重度の児童生徒への対応について	・相手（児童生徒）の立場になって考えることの必要性をもっと知りたいし知ってほしい。 ・大きくダイナミックに大げさに対応し、授業することだけが光をあびるように注目されているが…。待つ、一緒に感じる、共感する等静かな対応も大切だと教えてくれる人が少ないと感じる。それを知りたいし、知って欲しいと思います。
・摂食指導 ・排せつ指導 (健康の保持にあたるかと思いますが)	・本校で研修、実施しているので必要なと思いました。
・地域資源の活用	・学校を離れ（卒業）た時に知る学校という保険（人手、配慮）、受動的に生きる習慣が根強く、すべてにおいて自主的にアクセスしていく力が弱いと感じる。関係機関連携も含め、主体的に地域資源と関わる方法について考えるべき！
・進行性の障がいをもつ児童生徒に対する心のケアのようなもの	・実際にだんだん動かなくなっていく体、歩けなくなっていくことで、できていたことができなくなっていくとき、どう未来につなげていったらいいのか、自分では解決できずにいるので。

### 問3 これまでに自立活動の指導を行う上で、悩んだり、難しさを感じたりしたこと (n=69) (原文ママ)

- ・個別の指導計画を作成するにあたっての目標設定や手立て、支援方法について
- ・例えば、制作活動。みんなで同じものを作るのに、「Aさんはこう支援して、Bさんはああ支援して、Cさんはこの方法よりこっちのやり方がいいかな」とか、いつも試行錯誤しながら取り組んでいる自分がいます。どれが正解なんだろうと考えているうちに作品完成。この支援の仕方であつたのかな…とか他にいい方法あつたのかな…とか悩んでいるうちに1年が終わりそうです。(経験も浅く、技がないので、なんかいつも、いいやり方ないかな…と考えています)
- ・個々の実態に合わせた内容を行いたい、指導者に対して児童が複数になってしまい、じっくり向き合つての指導が十分ではないこと。
- ・教育支援計画や個別の指導計画の校内提出が5月で、新しい子どもの担当になると、児童が体調不良などの休みが多かったり、期間が短く、実態把握が不十分のまま、作成しなければならないこと。
- ・自立活動を主とする教育課程を担当していますが、教科よりも指導内容のある程度自由に設定できるため、教師によって偏りが出たり、本当にあつている内容なのか不安になることがある。
- ・実態把握を見あやまると、その後の指導内容や目標設定にも関わってくるので、しっかり見きわめないといけないなと思います。
- ・目標へのアプローチの仕方（支援方法）もいくつかパターンがあり、関わる職員で相談しながら、振り返りながら、時には修正をかけながら…の日々です。でも、悩みながらベストをつくすのが私たちの仕事かなと思います。
- ・関係医療機関に入所している児童生徒の情報共有の難しさ。体調面や身体の動かし方をその都度確認することが難しい（個人情報、主治医の許可取り等）。
- ・1対1の指導が必要な児童たちなので（特に「からだ」の時間は、歩ける子とそうでない子で取り組んでいる内容やその目標もバラバラである）、一人の児童の指導を行っている間、残った児童は待ち時間となることが多い。手に持ったものをすぐに食べてしまう（口に含んでしまう）児童や投げ捨ててしまう児童もいるため、物を持たせるとTは目を離せない。そのため待ち時間は車イスやクッションチェアでベルトをつけて（物を持たずに）ただ待っているだけになる。その間に退屈で眠ってしまう児童もいる。授業のやり方の工夫が必要だと感じるが、どうしたらよいか分からないままというのが現状である。
- ・実態把握や目標設定。個に応じて様々な身体の制約があり、これ以上動かしたらポキッとなる（可動域）など、細か

い見取りが必要となるため、PTの助言や保護者からの聞き取りなど大切にしなければいけない。

- ・評価。各教科と異なり、系統だてた目標とはなっていない。そのため、どのように評価をして、次の活動につなげていくかということに難しさを感じている。(チェックリスト等を使って指導計画等も立ててはいるが、有効的に使えているのか…などに悩む。)
- ・目標が毎年同じようになってしまうこと。
- ・教材が同じになってしまうこと。
- ・身体の機能を伸ばす方法や維持する方法をどのようにしていったらよいか。
- ・医療との兼ね合い。教育活動として学校で行う、あぐら座位、歩行器での歩行について、リハビリとの兼ね合いについて気になっていました。クラスの児童は医療機関でリハビリを受けており、保護者をとおしてその様子を教えていただいています。機会があれば、実際にリハビリの様子を見学し、学校でできることを教えてもらい、取り入れてみたいと思っています。学部主事、管理職に相談すれば進められる事項ではあると思いますが、なかなかそこに行きつかないのが現状です。(他用務に埋もれてしまって)
- ・今やらなければならないことが身に付かない。
- ・周りの関わる人間の共通の理解とアクションが必要である。
- ・目標設定：少しの支援でできるものということで悩むことがある。発達がゆっくりのため、ほぼ毎年同じものになってしまう。
- ・単元計画：季節を感じるものなど年間指導計画を立てているが、子どもの発達や興味を引き出せるものかと反応やできたことなど実態に合っているか。単元の目標・内容についても対象児に必要な学びにつなげていきたいが…。反省しているが…。これだ！という授業にはまだなっていないように思う。難しいです。
- ・障がいの重いお子さんで表出が乏しい場合、子どもの実態の見取り方、その見取りが合っているかどうか確かめようがなく、難しさを感じる。
- ・目標設定について、この目標でよいか迷うことが多い。
- ・実態把握
- ・適切な指導内容・方法の設定
- ・目標設定と評価：重複障害の児童を担当した際に、目に見えた大きな変化がなくどう評価すれば良いかととても悩んだ。教師側の主観になっているのではないかと、思い違いではないかととても悩んだ。
- ・自立活動を主とする教育課程の学級を担当しているが、指導内容が同じような内容になってしまうことがある。  
うんどう、かんかく→エアートランポリン等の大型遊具、水遊び等  
うんどう、なかま→ボールスライダーなど  
かんかく、なかま→バルーンなど
- ・どのように目標を設定するか(少しずつ向上するように、変化があるように)。特に進行性の時や重複でゆるやかな時
- ・「身体の動き」の内容で目標を立てることが多いが、本当にそれが児童にとって必要なのか…。複数の教員で丁寧に、多角的に児童を見て、目標を設定していく必要がある。
- ・指導・支援方法について：難聴や全盲の児童もいる中で、どのように音楽(リズム)の教材を準備したらよいか、悩むことがある。肢体不自由の児童に対する支援に加えて、曲に合ったイラスト等を準備する際も具体物が良いだろうな、イラストでは不十分だな…また、CDで曲をかけたいときも、動画のほうが良いかな?などと、集団での授業の中で、個に応じつつ支援していくことに度々つまづく。
- ・実態把握は大切だなと思います。自分だけの視点ではなく、学級担任団でいろいろな角度から子どもたちを捉えられればと思います。
- ・障がいが高く、快不快の違いも分かりづらい児童に対しての目標設定が難しい。どの場面においても似たような目標になってしまっている。
- ・肢体不自由に関する知識があまりないため、目標設定から指導内容、支援方法まで具体的に考えられず苦労しました。
- ・6区分のうちの「身体の動き」に取り組む際、いわゆる「訓練」的になってしまう。肢体不自由児の「身体の動き」に関する自立活動の実践例をいくつか知りたい。
- ・実態差の大きい集団での自立活動の目標設定や指導内容について、どのように設定したらよいか。
- ・自立活動と教科のつながり
- ・客観的な実態把握が難しい。(関わる人により反応が異なるため共有が難しい)
- ・自立活動の観点から単元計画を考えると、学級の中で実態差があった場合、学級単位で計画するのに難しさを感じる。

- ・関わる職員同士で情報を共有する時間がなかなかとれない。
- ・目標や日々の困り感などは何となく浮かんでも、具体的にどんな力にアプローチすればよいか、指導内容や支援方法が分からないことが多かった。
- ・児童の実態把握→個々の支援方法
- ・実態が一人一人異なる為、目標設定が難しい。
- ・児童の実態に合わせた、学年相応の活動をつくり上げることに難しさを感じます。
- ・児童の自己決定や活動を促す教材教具の工夫
- ・四つ這いで前に進むために、具体的にどう指導したら良いかが難しい（片手に麻痺があるので）。
- ・スプーンやフォークを自分で使って食事をしているが（給食）、家庭でも同じ食器、同じスプーンで同じように食事をしてほしいが、親が食べさせているようで、依頼することがなかなか難しい（朝の登校、食器…etc）
- ・学校の外部専門家相談で、同じPTさんOTさんに継続して見ていただきたいが、時間割上で難しいところがある。
- ・実態把握に時間が必要
- ・評価の表現には難しさを感じる
- ・すべての学習を自立活動として学習する良さと難しさ
- ・PT、OT、STさんに教えていただくことで、目標や指導内容、方法等が明確になることが多い。外部専門家相談がなければ難しいかも。
- ・姿勢や動作、歩行器や自力歩行のさせかた、負荷の量、体のどの部分をどのように動かすのが適切であるのか…などなど、医療者、療法士ではない自分が考えるのに不安や迷いが生じる。
- ・医療機関、リハビリとの連携について
- ・生徒の実態に合った指導内容や教材の作成に難しさを感じている。
- ・車イスにすわっての姿勢や手足の動き、筋緊張のとり方など、どのように指導につなげていけばよいのか？
- ・ICTの有効的な活用方法。
- ・重複障がい（重度の生徒）の評価。（短期目標が難しかったです…）
- ・生徒の体調や身体の動かし方に関して、専門的な知識、経験が必要となり、苦慮する場面が多い。
- ・実態や発達段階に社会の状況もみすえて指導内容を検討し進めていきたいと考えているが、じっくり深められず浅いまま授業が終わってしまっています。
- ・年々、身体の準備（たいそう等）、ポジショニング、シーティング等の学習準備が疎かになっているように思う。新しいものにとびつくのもよいが、基本的な事がなされている上での新しいものでなければならぬ。専門性の危機です。
- ・どうしてもマンツーマンの指導になりがちのため、教員と生徒との適切な距離感について、伝えるのが少し難しいと感じています。
- ・3人の生徒がいて、自立活動の時間は2人の教師が入っています。障がいが重い生徒に手をかけると…、個々に応じた課題を達成するために支援がまわらない…と悩むことがあります。だから、できる範囲でやるしかない。
- ・実態把握をするためにも、外部専門家（PT、OT、STさん）の助言をいただく機会を大切にしている。このような指導がないと肢体不自由児への支援方法は分からないため、本当にありがたいです。
- ・保護者のニーズとのすり合わせ
- ・自分自身のモチベーションの確保（成長、進歩が見られにくい、むしろ悪化していく状況に）
- ・Dr.との連携（複数のDr.の言うことが異なるなど）
- ・正解のない指導で、子ども一人ひとりによって異なる内容のため、これで良いのか相談する相手がいなかった時（特に準ずる）。
- ・子や親の願いや将来の事を考えて内容を考えるが。
- ・摂食指導でどうしても上手に飲ませたり、食べさせたりすることができない。車イスからマットにおろしてリラックスさせたり、体操をしたりするが、まだ恐怖心があって体を動かす時に自信がないことがある。
- ・指導内容が同一のものになりがち
- ・自立活動の目標を立てる際、「今までやってきていること」が見えにくい。（個別の記録だけでは全てをみられない）
- ・個別の指導計画の目標設定：変容が見られないため、毎年同じような目標になってしまう。そのため、評価も同じようになってしまう。
- ・目標設定までの流れ
- ・体に関することの支援方法
- ・実態把握
- ・目標設定

- ・指導内容
- ・生徒の実態を正確に把握している教師が側にいないため、実態把握をするまでに時間がかかってしまう。
- ・進行性の病、障がいのある生徒に対する適切な運動量、負荷にならない程度の運動量という医師からの指示に対しての求められている運動量の設定が難しい。
- ・一人一人の実態が異なるため、幅広い支援が必要で、1対1の指導で充実した指導にしたいが、難しさがある。
- ・重度の生徒の病気が進行してしまい、以前よりできなくなることが増えてしまうケースもあります。その時はせつなくなります。
- ・指導内容：子どもの伸ばしたい部分について考えた時に、どの部分に視点を当てるか悩む。保護者、本人の希望等も聞きながらにはなるが。
- ・肢体不自由教育、特別支援教育校での勤務経験が無く、数時間の研修のみで自立活動の指導を行うこと自体にとまどいと難しさを感じました。周囲の先生方にも負担になってしまったことと思います。
- ・支援方法について：どこまで支援するか、過剰な支援になっていないか、無理させていないかの判断が難しいと感じます。
- ・児童の実態をみて6つの項目から指導内容を考えるが、具体的な指導内容を考えるのに難しさを感じる。経験してきた内容（刺し子、手話、歩行訓練、ヨガ、網かご、ストレッチ）
- ・摂食指導について、摂食能力の向上のために研修会に参加して摂食指導について学び、また、家庭との連携を目的に摂食方法について通院施設でのSTさんからの指導をあおぎ、給食時に実施していた。が、家庭からの協賛は得られず、定着が難しかったこと。
- ・肢体不自由の生徒に肢体不自由からくる困難さを改善するためにどのような学習内容を行えば良いのか。
- ・目標設定が同じような内容になってしまうことがある（重度の方）。
- ・支援方法の内容にいきづまりを感じることもある。
- ・目標設定、指導内容、支援方法、評価：これらについて、反応もあまりなく、いわゆる寝たきりのような児童生徒に関する指導について難しさを感じます。併せて、上記のような子どもたちの「キャリア教育」とは何だろうと悩むこともあります。
- ・自立活動を主とする教育課程における協働的な学びの場をどのように作り出せばよいのか、生徒に効果を生み出すことができるのかが難しい。
- ・評価において、生徒の反応に限られていると、評価ではなく様子の観察に滞ってしまっていたり、主観が混じってしまいそうになる。どのように評価としてすくい上げればいいのか悩む。
- ・詳しい病状がわからず、どこまで体を動かしていいのか迷うとき。
- ・表情の変化以外に評価方法がみつけれないとき。
- ・評価（通信表などで）の文章が同じようなものになってしまう
- ・人の不足：個に合わせた指導をしたいが、2人に対して1人の教員となると時間を区切ったり、一緒にできることのみでの指導・支援になりがち。
- ・指導内容・支援方法：専門的な知識・経験がないため、これでよいのか…と悩みがちです。
- ・時間をかけてじっくりと実把握等を行うことができない
- ・目標設定についての相談をじっくりと時間をかけてすることが難しい
- ・実態把握をする上で、必要な視点を自分が持っている方がいいが、ほとんど「肢体不自由児」については持っていないので、何かしらの手がかりがあると良い。（手引き等）

#### 問4 肢体不自由教育における教員の専門性の向上と指導の充実のために、今後肢体不自由教育全体（学校全体）で必要だと考えること（n=52）（原文ママ）

- ・肢体不自由教育に関する研修会を行う。（となん支援学校は、教諭・講師と職員の人数が多いため、初めて勤める方の学びとして）
- ・教員一人一人が目前の子どもに対してそれぞれの考え方で指導している。子どもの将来を考え、一貫した指導が行える体制づくりが必要だと考える。
- ・排せつ、姿勢、身体の動き、ICTなどそれぞれできる先生はいるが、教師一人ひとりが基礎を学び、専門性を高めていくことが必要だと考える。できる人任せになり、その人たちが学校を支えているが、その人たちがいないと何もできない教師も多い。
- ・基本理念などの変わらないことと、最新の情報を常に学べる環境。研修会等は、授業日にやられても参加できないことが多いので、参加しやすい日にあるといいと思う。
- ・PT、OT、STの分野のことも学びたい。（免許はないのでそのとおりにとはできないけど、知っていたら指導に生

かせることがあるのでは)

- ・子ども達の命に直結する医療の情報等は常に最新の情報でないといけないので、外部専門家の活用、研修会等を定期的に行う必要があると思います。(すでにやっているとは思いますが…)
- ・個人情報に関わるかもしれないが、学部をこえて障がいごとに気をつける点、悩みなどを共有する(教師間で)場が欲しい。それを何年も残して、稀な障がいをもつ子どもでも、遡って閲覧できるようにしたらどうか。
- ・全肢研は全員参加など、肢体不自由についての情報(知識)を得る機会をつくる。
- ・個々の専門性を研修等で上げる。それを学校全体のものにできるような取り組みが必要。
- ・外部専門家等の活用から、具体的に学校教育としてどう教育活動に生かしていくのか、個々の事例検討をしていくなど。
- ・研修報告会をより実践的にする(例えば摂食に関するものなどは実技も入れるなど)。
- ・自立活動の指導法の充実(Ⅲグループの児童が多いのに、指導、支援に関しては担任まかせになっている気がする)。
- ・とんざん支援学校は、新任者研修が充実しており、私自身、今年度赴任してきたときに多くのことを学ぶことができ、とてもありがたかったです。また、実際の指導について専門家に見てもらい指導を受けることができる機会もあり、常に専門性の向上を図っている学校であると思います。授業づくりについての専門性の向上を研究部で、児童生徒の障害特性に応じた指導についての専門性の向上を自立活動支援部が担っているのだと思います。
- ・医療との連携。情報の共有。
- ・肢体不自由は障がいの理解～子どもによって研修すべきことが多くて大変だな～と思います。(ぼやき)
- ・研修と校務、授業のバランスが必要では？
- ・肢体不自由の支援学校には、スペクトラム障がい(の特性)をあわせもっている児童生徒もいる。特性にあわせた指導をしていく必要があると思う。
- ・専門性の向上のために、研修会に多く参加したい。知らないこともまだまだ多くあるため、学ぶ機会を作っていただきたい。
- ・認知発達の知識を深める：脳を起因とする障がいの場合、認知にも個々に特性がある場合があるが、あまり意識されていないように感じるから。
- ・問3でも触れましたが、肢体不自由教育に詳しい方から学んだり、一緒に目標や指導内容について考えたりする場。学級担任団だけでは、本当に何が必要なのかを的確に判断するのが難しいことがある。
- ・TTの連携については、常日頃から感じることです。
- ・同じ教育課程に長く配置するのではなく、2年毎位で他の教育課程も経験すると良いと思う。
- ・呼吸や摂食の研修はありますが、障がいの特性やケア方法、具体的な支援方法などを学ぶ機会がないので、研修や学習会などがあると良いです。
- ・ICT機器を活用した授業づくり
- ・重度・重複障害児への教育的なアプローチ→専門家による指導・助言(宮城教育大学：寺本淳准教授、東北福祉大学：村上由則教授等)
- ・変化がすごい中ではあるが(医ケアの法案や障がいの重度化、ICTの進化など)、今までやってきた一人一人を丁寧に見ることや、教員同士で学び合い、技術を伝えていくことは本当に大切だと思います。そこに外部専門家や看護師さんなども加わり、話し合いやケース検討を続けていくことが専門性を向上させると思います。
- ・Ⅰ～Ⅲグループどのグループも経験すること、かたより(同じグループ)だけでは教育に広がりがないのでは。
- ・授業実践、教材教具の情報共有(簡潔に情報にたどりつけるようになるとうい)
- ・各機関との連携
- ・教員がいろんな知識をつけて資質、専門性を高めるのも大切とは思いますが、教諭ががんばるだけでは手いっぱいなのではないか。医療側の専門家がより深く学校の指導に関わり、一緒に授業を行うような体制が構築されていくといいのだが。
- ・担当する教育課程が違くと、他のグループの様子がわからないでしまうことがよく見られる。肢体不自由の学校にいるが、他の教育課程の様子を知らずに転勤ということになってしまうことも多い。それでもいいのかもしれないけど…。
- ・生徒の障がい特性について共有すること。
- ・身体に関すること、摂食指導、発作など多くのことを学ぶ必要があるが、ICTの活用についても一人一人に合ったものをみんなで検討するなどの場が必要ではないか。
- ・肢体不自由教育の教員の専門性の向上には、肢体不自由教育に長く携わらなければ見えない、わからない。教員生活一生を肢体不自由教育に携わることは、転勤があるため不可能である。専門性の向上に向けた校内研修のありかたが課題である。

- ・教材教具の中でもICT活用に結びつく部分。接点式入力スイッチの実践例、購入方法から組み立て方法まで。
- ・生徒の実態が様々であるため、障がいに関する幅広い知識は必要であると思う。知識があった上でようやく実践にうつすことができ、そこから生徒一人一人のニーズに対応していくことができるのではないのでしょうか。
- ・特に自立活動については、児童生徒にあわせて指導を進めていくため、指導の事例を多く共有できれば、お互い役立てられると思います。
- ・六つの区分のシステム化。何からやったらよいか？何をやったらよいか？を明確にする。
- ・eスポーツなどを参考にした、視線やわずかな動きのみで行える機械操作のきっかけづくり。(就労先の開拓にもなるか?)
- ・研修の機会。専門性を高めるために学ぶチャンス。
- ・授業づくりにかける時間がない(他の業務に追われている)ので、授業の準備のための時間が欲しい。
- ・教師同士のコミュニケーション不足。すれ違う時にあいさつを交わす当たり前の事ができる事が必要。
- ・助け合う気遣い、心遣いが必要。
- ・肢体不自由という障がいからくる経験の不足というものがある。医療が許すかぎり、校外に出て、様々な経験をつまませてあげたい。
- ・医療との連携。今後さらに連携を深めていけばいいと思う。
- ・外部の専門家からのアドバイス
- ・様々な生徒に対する指導の共有、みえる化。データベース化?
- ・病気に対する知識を身につけること
- ・介助者に負担のない介助方法
- ・知的代替で教科(音楽)を行う時、実態の幅がありすぎて学習指導要領に準じた題材設定が難しい。焦点があわせづらいので、理解を深めていきたいです。
- ・校内研究の充実
- ・障がいの種類ごとの研修会
- ・肢体不自由だけではなく、様々な病気をあわせもっている児童生徒が多くいる。医ケアの子どもたちは病弱という扱いだが、その他の子どもたちは病気をあわせもっていても、病弱生徒として扱う意識がうすいように感じる。もっと病状への理解を深め、病弱教育についての理解を深めたらよいと思う。
- ・心を育てる教育が大切で、必要だと思います。
- ・保護者対応の難しさを教えてくれるといいですね。チームで対応していくことも大切だと思いますが、それにしてもしも担任の負担が多く大きく大変です。
- ・重度の子どもが増えてきているので、医ケアとの連携がとても必要になってくると思う。
- ・(希望者だけでも良いかと思うが)オンデマンドによる研修の機会を年2~3回必要かと考える。専門性の継承を学校としてどう考えるか、経験職員が減ってきている今こそ、検討が必要かと思っています。
- ・教師のICTリテラシーの確立
- ・職員それぞれの課題意識はいろいろ違うが、同じ課題を持った職員同士でもっと討議できる研究会の場があると良い。
- ・PTやOTなど外部専門家の知見も活用していく。
- ・職場環境の改善(介助で職員が疲へいしている)
- ・研究などでチーム(同じ学部、学級などにかかわる職員で)作りをして、日々の実践を確認する機会を多くつくる。
- ・教育課程や教科などより専門的な内容での話し合い。(教科研やグループ研での社会での生活を見すえ、そこからの指導を考える機会をもつ)。(社会生活で必要なこと→高で身につけること→中…など個々に計画を立てるが整理する機会が必要)。(例:小では中、高、卒業後をおおまかに検討、高では小中で身についたことを確認してからすすめるなど、つながりを感じるような機会が必要)
- ・児童生徒一人一人のケースについて共有する、チームで対応する、検討する。
- ・医療、福祉、家庭との連携、共有
- ・広い空間:狭い教室に何台も車いすの生徒がいて、ゆずりあって移動しながら学習している。
- ・介助員(車いすを押してくれる方):生徒の車いすを押して進んでいるとき、生徒の表情が全く見えないから。
- ・たくさんあると思うが…。保護者のニーズと教育。

### 【資料3】小学部第2学年自立活動学習指導案

#### 小学部第2学年自立活動学習指導案

日 時：令和4年9月6日（火）3校時

令和4年9月7日（水）3校時

令和4年9月8日（木）3校時

対 象：岩手県立盛岡となん支援学校

小学部2年2組2名

場 所：小学部2年2組教室

指導者：齊藤香子（T1）、千葉瑞季（T2）

#### 1 題材名「からだをうごかそう！」

#### 2 内容のまとめ

自立活動 【1 健康の保持】（3）身体各部の状態の理解と養護に関すること。

【2 心理的な安定】（3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

【4 環境の把握】（1）保有する感覚の活用に関すること。

【5 身体の動き】（1）姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。

（3）日常生活に必要な基本動作に関すること。

#### 3 題材の目標

（1）自分の身体の状態に注意を向けて、力を抜くことができる。【1健（3）】【5身（1）】

（2）教師の動きに合わせて、身体を動かすことができる。【2心（3）】【4環（1）】【5身（1）（3）】

（3）四つ這い位で姿勢を保持することができる。（児童A）【4環（1）】【5身（1）（3）】

（4）手押し車で進むことができる。（児童B）【4環（1）】【5身（1）（3）】

#### 4 題材について

##### （1）児童について

ア 対象児童は、重複学級に在籍する2年生2名である。知的代替の教育課程で学習している。

イ 児童Aは、移動機能障がい、心臓機能障がいなど、複数の障がいを併せ有している。右半身にまひがあり、右手足に動かしくさがある。歩行は可能だが、左右の脚長差があるため、平坦な道でもふらつくことがあり、見守りが必要である。また、激しい運動は禁止されており、学校では日に3回、血中酸素飽和濃度（SpO<sub>2</sub>）を測定しながら生活している。

ウ 児童Bは、移動機能障がいがあり、左半身にまひがある。左手足の動かしくさの他に、右手にも若干の動かしくさがある。移動には車椅子を使用し、介助を必要としている。股関節脱臼防止のため、外転装具を装着している。

エ 2名とも、まひのため上肢の動かしくさがあり、力の加減や動きの微調整には困難さがある。しかし、日常生活動作については、その場面で必要な動作を理解し、できることは自分でやろうとしたり、できないことは周囲に依頼したりして行うことができる。

オ 2名とも言葉でのコミュニケーションが可能である。入学当初は、周囲からの働きかけに適切に応じることができない様子も見られたが、現在は、自分の意思を伝えたり、相手の質問に答えたりして、周囲とのコミュニケーションを楽しむことができている。

カ これまでの自立活動の指導では、上下肢の粗大運動や手指の巧緻性を高める活動に取り組んできた。学習内容や目標時間を意識し、教師の声掛けを聞いたり、友達と一緒にいたりすることで意欲的に取り組むことができた。

## (2) 指導について

ア 2名とも日常生活動作の遂行が困難なときには、周囲に依頼することができるが、将来の生活場面や保護者の意向を踏まえると、まひのある側の上肢も活用しながら、一人で行える動作を増やしていくことが必要である。

イ 児童Aは、チャック袋の開閉時にまひのある側の上肢で袋を押さえたり、はさみで紙を切る時にまひのある側の上肢で紙を保持したりするなど、一人でできる動作を増やしていきたい。そのためまひのある右上肢への力の入れ方や力加減を知り、細かい動きの調整を行えるように学習していく。

ウ 児童Bは、全身の筋緊張が強いため、身体の硬さや動きのぎこちなさがある。そのため日常生活に必要な動作を行う基礎として、自分の身体に意識を向けて力を抜く学習を行っていく。また、上肢を意識して動かす方法を習得できるように展開していきたい。

エ 2名とも、自分の身体に意識を向け、力加減や動きを調整する感覚を実感することで、学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意識を高めるようにしていきたい。また、児童Aは四つ這い姿勢を保持する活動において目標時間を、児童Bは手押し車で進む活動において目標距離を、児童自身が設定することで、主体的に活動したり、成就感を味わったりできるようにしていきたい。

オ 2名は、普段から互いの存在を意識し合い、相手の頑張りを受けて自分の意欲を高めている様子が見られる。自立活動の指導目標は異なるが、活動場所や活動の流れを合わせて行うことで、意欲的に取り組むことができるようにしたい。更に、活動場面を動画撮影し、児童が映像を見て自分の動きを振り返ったり、授業の終わりに感想発表を行い、自分や友達の良い点に気付いたりすることができるようにし、児童の自己理解が深まるように活動内容を工夫していきたい。

## (3) 研究との関わり

本研究では、三つの手立てで研究を進める。手立て1では、肢体不自由教育における教員の専門性について調査を行い、教員の専門性の要素を整理した。その調査結果を受け、手立て2として、「自立活動指導資料（試案）」（以下、「指導資料（試案）」という）を、次の構成で作成した。

### ○第1章 肢体不自由教育の基本的理解

肢体不自由教育に携わる上で必要な専門的な知識及び指導のポイントを示した。

### ○第2章 自立活動の指導～自立と社会参加を目指して～

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（平成30年）」で示されている個別の指導計画の作成手順の説明や肢体不自由のある児童生徒への具体的指導内容と留意点を整理した。

### ○第3章 自立活動と各教科の関連～小学部を中心に～

小学部の各教科での指導上の配慮事項や自立活動との関連を示した。

作成した指導資料（試案）は、手立て3として、肢体不自由教育の専門的な視点を踏まえた授業実践を通して、その有効性を検証する。本授業で活用する指導資料（試案）の内容は、次のとおりである。

○第1章 肢体不自由教育の基本的理解

(3) 肢体不自由のある児童生徒の特性

状態と区分・項目の関連例 (pp. 4-5)

(6) 姿勢や身体の動きについて (p. 14)

○第2章 自立活動の指導～自立と社会参加を目指して～

(2) 肢体不自由のある児童生徒の自立活動 (pp. 33-44)

(3) 自立活動の指導内容と留意点 (pp. 45-76)

まず、指導資料（試案）の巻末に示した資料1「自立活動の指導における目標設定シート」を活用し、児童の実態把握を行い、指導目標と指導内容を検討する。検討する際は、学級担任・副担任、学部主事、自立活動支援部員を交えた検討会を行い、児童の実態や家庭生活、卒業後の生活など様々な視点から意見を出し合い、現時点で指導すべき課題を抽出し、指導目標を設定する。次に、実践場面を想定し、指導内容及び指導の手立てを検討する。本授業では、体操や上肢・身体の粗大運動を行うことで、自分の身体の各部位を意識して動かす力を高めたい。

指導資料（試案）の活用を通して、肢体不自由教育における専門的な視点を踏まえた授業展開を図ることで、教員の専門性と指導の充実につながるものとする。

5 児童の実態と本題材の評価基準

<児童A>

【区分(項目)】	実態	評価基準
【1健康の保持(3)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>右半身にまひがあることを理解し、主に左手で日常生活動作を行うことができる。</li> <li>右上肢の機能の低下を予防するという意識はまだみられない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の声掛けで、自分の上肢に入っている力に気付き、力を抜いている。</li> </ul> <p>【1健(3)】【5身(1)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>下肢の伸ばしにくさに気付き、教師の援助を受けて、まっすぐに伸ばしている。</li> </ul>
【2心理的な安定(3)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>右半身まひによる困難さを理解しており、できないことは周囲に依頼することができる。</li> <li>右上肢で物を押さえたり、両上肢で物を持ったりする場面が時々見られ、両手を使って活動しようとする意欲が育ってきている。</li> </ul>	<p>【1健(3)】【5身(1)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身体から右上肢を離して、動かしている。</li> </ul> <p>【4環(1)】【5身(1)(3)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動画を見て、自分の上肢や身体の動き方を知り、動きを改善しようとしている。</li> </ul>
【4環境の把握(1)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>まひのない側の上肢や下肢を活用し、運動・動作を行うことができる。</li> <li>まひのある側の上肢がどこまで動くのか、どの程度力が入るのかなどを把握できていない。</li> </ul>	<p>【2心(3)】【4環(1)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>両上肢に力を入れて、姿勢を保持している。</li> </ul>
【5身体の動き(1)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>脚長差や運動制限があるため、時間を要するが、一人で歩いて移動することができる。</li> </ul>	<p>【4環(1)】【5身(1)(3)】</p>
【5身体の動き(3)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>両上肢を使って、日常生活に必要な運動・動作を行うこともある。</li> <li>まひのある側の上肢で物を押さえたり、物を腕と脇の間に挟んで固定したりするなどの動作を行うことが増えてきている。</li> </ul>	

<児童B>

【区分（項目）】	実態	評価基準
【1健康の保持 （3）】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左半身にまひがあることを理解し、日常生活動作は右手を主に使用している。右手にもぎこちなさがみられる。</li> <li>・左上肢の機能の低下を予防するという意識はまだみられない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の声掛けで、自分の上肢や手指に入っている力に気付き、力を抜いている。</li> </ul> <p style="text-align: center;">【1健（3）】【5身（1）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体から左上肢を離して、動かしている。</li> </ul>
【2心理的な安定 （3）】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左半身まひによる困難さを理解しており、できないことは周囲に依頼することができる。</li> <li>・車椅子の操作を両手で行ったり、給食時に両手で牛乳パックを持ったりするなど、両手を使って活動しようとする意欲が見られることもある。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">【4環（1）】【5身（1）（3）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画を見て、自分の上肢や身体の動き方を知り、動きを改善しようとしている。</li> </ul> <p style="text-align: center;">【2心（3）】【4環（1）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両上肢に力を入れ、手指が伸びたままになるように意識して、進んだり、保持したりしている。</li> </ul>
【4環境の把握 （1）】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両上肢を使って、運動・動作をしようとしている。</li> <li>・まひのある側の上肢がどこまで動くのか、どの程度力が入るのかなどを把握できていない。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">【4環（1）】【5身（1）（3）】</p>
【5身体の動き （1）】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子での姿勢保持、短距離の自走ができる。</li> <li>・筋緊張が強い。自分で力を緩めたり、崩れた姿勢を自分で直したりすることには困難さがある。</li> </ul>	
【5身体の動き （3）】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まひのない側の上肢を使って、日常生活に必要な基本動作を行うことができる。</li> <li>・まひのない側の上肢にもぎこちなさがみられるため、動作に時間がかかることもある。</li> </ul>	

6 展開 (全3時間)

時間	学習活動	・指導上の留意点 ☆支援 ◇評価	
		児童A	児童B
導入 7分	1 あいさつ 2 学習内容の確認 ・本時の学習内容を知り、見通しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真やイラストを用いたカードを提示し、学習内容をイメージできるようにする。</li> <li>・活動内容をホワイトボードに掲示しておき、見通しがもてるようにする。(以後、終了した活動カードは取り外していく。)</li> </ul>	
展開 25分	3 からだをうごかさう (1) 体操をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マットに寝転んで行き、心身ともにリラックスできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆「右腕だよ」と声掛けをして、意識を向けることができるようにする。</li> <li>☆「力が入っているね」など身体の状態を言語化して伝え、上肢に入っている力に気付き、力を抜くことができるようにする。</li> <li>☆伸ばしてほしい部分に手を添えて、伸ばす方向を示し、自分の下肢を意識できるようにする。</li> <li>◇教師の声掛けで、自分の上肢に入っている力に気付き、力を抜いている。</li> <li>【1健(3)】【5身(1)】</li> <li>◇下肢の伸ばしにくさに気付き、教師の援助を受けて、まっすぐに伸ばしている。</li> <li>【1健(3)】【5身(1)】</li> </ul>
	(2) 教師の模倣をして、上肢や身体を動かす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腕を身体から離して、前後や左右、上下に大きく動かすことや振付(動き)の確認をしてから始める。</li> <li>・T1は児童の前方で手本となる動きをする。T2は児童の近くで、具体的な動きを声掛けする。</li> <li>・動画を撮影し、児童が自分の動きを確認できるようにする。</li> <li>・2・3時間目には、前時に撮影した動画を見て振り返りを行ってから始める。</li> </ul>	

時間	学習活動	・指導上の留意点 ☆支援 ◇評価	
		児童A	児童B
		<p>☆児童椅子に座って行い、上肢の動きに集中できるようにする。</p> <p>☆「先生に届くくらい伸ばして」など具体的な動きをT1が声掛けをして伝え、できるだけ大きな動きができるようにする。</p> <p>◇身体から右上肢を離して、動かそうとしている。</p> <p>【4環(1)】【5身(1)(3)】</p> <p>◇動画を見て、自分の上肢や身体の動き方を知り、動きを改善しようとしている。</p> <p>【2心(3)】【4環(1)】</p>	<p>☆開始前に、車椅子の胸ベルトの締め具合を児童と一緒に確認する。「姿勢がまっすぐになっている」ことを児童が実感してから始める。</p> <p>☆T2が近くで「上だよ」など声掛けをして、上肢の動かす方向が分かるようにする。</p> <p>◇身体から左上肢を離して、動かそうとしている。</p> <p>【4環(1)】【5身(1)(3)】</p> <p>◇動画を見て、自分の上肢や身体の動き方を知り、動きを改善しようとしている。</p> <p>【2心(3)】【4環(1)】</p>
	(3) チャレンジ活動をする	<p>・児童Aは四つ這い位の姿勢保持、児童Bは手押し車をするように促す。</p> <p>・教師と一緒に考える時間を設け、児童自身が目標の時間や距離を設定できるようにする。(2・3時間目には、前時の目標時間や距離を振り返りながら決めるように促す。)</p> <p>・タイマーや目印を用い、目標を意識して取り組めるようにする。</p>	<p>☆開始前に、四つ這い位の姿勢を確認する。</p> <p>☆姿勢が崩れてしまう時は、目標時間の再設定を提案したり、姿勢の再確認をしたりする。</p> <p>◇両上肢に力を入れて、姿勢を保持している。</p> <p>【4環(1)】【5身(1)(3)】</p>
			<p>☆開始前に、手指を曲げずに行うことを確認する。</p> <p>☆教師が腰を保持することで、腕の力や体幹を意識できるようにする。</p> <p>◇両上肢に力を入れ、手指が伸びたままになるように意識して、進んだり、保持したりしている。</p> <p>【4環(1)】【5身(1)(3)】</p>
終末13分	<p>4 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんばり発表をする</li> <li>・動画を見て、自分の動きや友達の動きを確認する</li> </ul> <p>5 あいさつ</p>	<p>・選択肢を提示し、自分が一番頑張ったことを発表できるようにする。</p> <p>・友達の動きで良かったところがあれば、発表するように促す。</p>	



**手順3 指導目標の設定**

課題同士の関係を整理する中で今指導する目標として  
 ⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階

- 【長期目標】  
 ・右腕の力の入れ方や使い方が分かり、一人のできる動作が増える。
- 【短期目標】 \*条件、行動、基準を示す  
 ・はさみで切るときに、自分で紙を押さえて、2回刃を動かして切ることができる。  
 ・チャック袋の開け閉めが一人のできる。

**手順4 具体的な指導内容の設定**

指導目標を達成するために必要な項目の選定  
 ⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階  
 ⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。	(1) 情緒の安定に関する事。	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。	(1) 保有する感覚の活用に関する事。	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事。	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事。	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事。	(2) 言語の受容と表出に関する事。
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事。	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。	(3) 言語の形成と活用に関する事。
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。		(4) 集団への参加の基礎に関する事。	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。	(4) 身体の移動能力に関する事。	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
(5) 健康状態の維持・改善に関する事。			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定  
 ⑧ 具体的な項目を関連付ける段階

<指導内容> ・教師の模倣をして右腕を動かす。 (右腕の動かし方が分かるために【2心(3)】【4環(1)】【5身(1)(3)】を関連付けて設定)	<指導内容> ・右腕で紙を押さえて、はさみで紙を切る。 (紙を押さえる力が分かるために【1健(3)】【5身(3)】を関連付けて設定)	<指導内容> ・チャック袋を右腕で押さえて開ける。 (右手で物を押さえる力が分かるために【1健(3)】【5身(3)】を関連付けて設定)
<指導の手立て> ・できるだけ大きな動きができるように、具体的な動きを声掛けして伝える。 ・動画撮影をして自分の動きを振り返ったり、友達と互いの「上手にできていたところ」を発表し合ったりして、意欲的に取り組めるようにする。	<指導の手立て> ・紙を押さえることを意識できるように、1回の刃の動きで切り取れる長さの用紙を使用する。	<指導の手立て> ・チャック袋の押さえる場所が分かるように、シールを貼る。 ・開けやすいように、手前から奥にチャックを動かすように袋を配置する。
<指導の場面> ・自立活動の時間 ・昼休み ・朝の会	<指導の場面> ・個別学習の時間 ・制作活動の時間	<指導の場面> ・給食時間

**手順5 評価**

<評価基準> ・身体から右腕を離して、動かしている。	<評価基準> ・教師の援助を受けて、右腕で紙を押さえて、1回刃を動かして紙を切っている。	<評価基準> ・教師の援助を受けて、チャック袋を右腕で押さえて開けている。
-------------------------------	---	--

【資料5】小学部第2学年「自立活動の指導における目標設定シート」(児童B)

令和4年度 自立活動の指導における目標設定シート					
学部学年	小・中・高	年	氏名	B	
教育課程	準ずる		知的代替	自活主	訪問

手順1 実態把握

① 興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

興味・関心 苦手なこと	好きなこと 得意なこと	身体を動かす遊び、積み木 ピアノに興味がある
	苦手なこと	大きな音、低い声、人が怒る声
学習や生活の中で 見られる良さと 課題	良さ	慣れた教室での活動には意欲的に取り組む、朝の会の当番活動を好む ラジオ体操で教師の動きを模倣できる 人との関わりを楽しむことができる
	課題	作業がうまくできないときなど、怒ってしまうことがある 緊張や不安から、頻繁にトイレに行ったり、間に合わずに漏らしてしまうことがある 車椅子で身体が傾いていることがある 右手にぎこちなさがあり、日常生活動作に時間がかかる

② 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

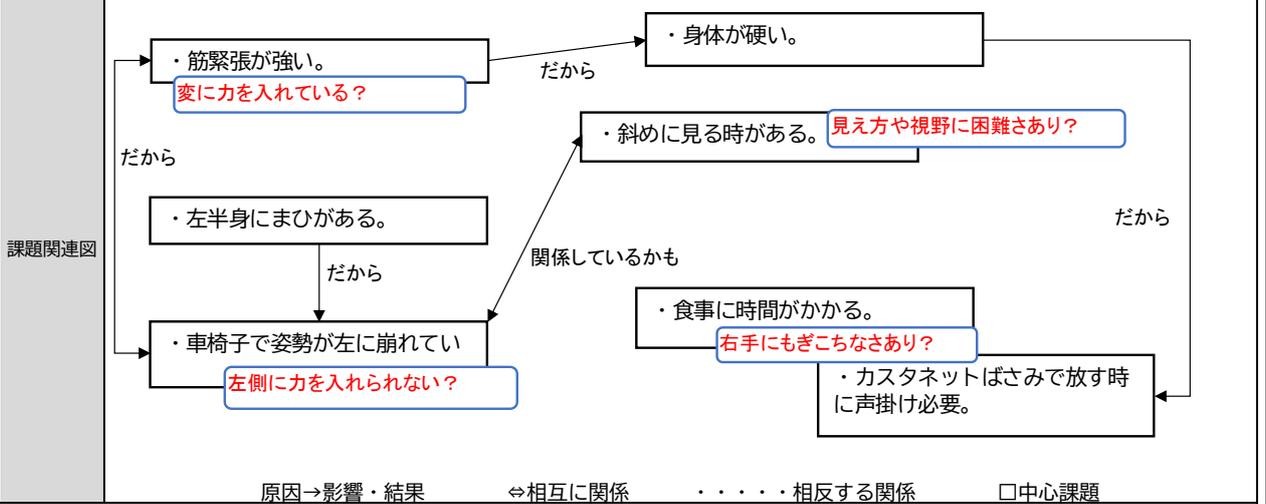
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1)不安が重なるため眠れなくなる <b>配慮でOK</b>	(1)初めての場や活動に不安が強い <b>配慮でOK</b>	(1)人との関わりを楽しむことができる	(1)ラジオ体操で教師の動きを模倣できる	(1)筋緊張が強く、身体が硬い	
(1)緊張や不安から、頻繁にトイレに行ったり、間に合わずに漏らしてしまうことがある <b>配慮でOK</b>	(2)集団での活動は、事前に確認したり練習したりすると楽しむことができる	(3)作業がうまくできないときなど、怒ってしまうことがある <b>配慮でOK</b>	(2)大きな音が苦手 <b>配慮でOK</b>	(1)左半身にまひあり、右手にもぎこちなさがある	
(3)筋緊張が強く、身体が硬い	(1)不安が重なるため眠れなくなる <b>配慮でOK</b>	(4)集団での活動は、事前に確認したり練習したりすると楽しむことができる	(2)斜めに見ることがある。	(2)車椅子で姿勢が崩れやすい	
(3)大きな音が苦手で泣くことがある <b>配慮でOK</b>	(1)作業がうまくできないときなど、怒ってしまうことがある <b>配慮でOK</b>		(2)聴覚からの情報をよく覚えている	(3)作業がうまくできないときなど、怒ってしまうことがある <b>配慮でOK</b>	
	(1)慣れた教室での活動には意欲的に取り組む			(3)補助具を使って、一人で食事をするができる	

手順2 課題の抽出と関連の整理

③ ①をもとに②で整理した情報から課題を抽出する段階

- 筋緊張が強く、身体が硬い(身) ・斜めに見ることがある(環)
- 車椅子で姿勢が崩れやすい(身) ・左半身にまひあり、右手にもぎこちなさがある(身)

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階



④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

【指導すべき課題】 (つけてほしい力、これから獲得すべきこと、○年後に向けて今つきたい力)

- ・身体力を自分で抜いたり、緊張をゆるめたりできる (自分で力を抜いたり、緊張をゆるめたりできれば、右手の力を抜いて作業できるようになると考える)

手順3 指導目標の設定

課題同士の関係を整理する中で今指導する目標として  
⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階

【長期目標】  
・自分の身体の動きに意識を向け、緊張をゆるめたり、身体各部に力を入れたり抜いたりすることができる。  
・座位で手を動かすことができる。

【短期目標】 \*条件、行動、基準を示す  
・教師の声掛けで腕や手指の力に気付き、まっすぐ伸ばすことができる。  
・車椅子に座り、身体から左腕を離して、上下や左右に動かすことができる。

手順4 具体的な指導内容の設定

指導目標を達成するために必要な項目の選定  
⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階  
⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。	(1) 情緒の安定に関すること。	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。	(1) 保有する感覚の活用に関すること。	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること。	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること。	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること。	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関すること。	(2) 言語の受容と表出に関すること。
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること。	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること。	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。	(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること。	(3) 言語の形成と活用に関すること。
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。		(4) 集団への参加の基礎に関すること。	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。	(4) 身体の移動能力に関すること。	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
(5) 健康状態の維持・改善に関すること。			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定  
⑧ 具体的な項目を関連付ける段階

<指導内容>	<指導内容>	<指導内容>
・腕の体操をする。 （腕や手指に入っている力に気付いたり、力を抜いたりするために【1健（3）】【5身（1）】を関連付けて設定）	・教師の模倣をして上肢や身体を動かす。 （上肢を身体から離して動かす体験をするために【2心（3）】【4環（1）】【5身（1）（3）】を関連付けて設定）	・手押し車で進む。 （上肢への力の入れ方や動かし方が分かるために【4環（1）】【5身（1）（3）】を関連付けて設定）
<指導の手立て> ・左腕や手指に触れながら、「左腕だよ」「親指だね」と声掛けをして意識できるようにする。 ・「曲がりにくいね」など身体の状態を言語化して伝え、力に気付いたり、力を抜いたりできるようにする。	<指導の手立て> ・開始前に、車椅子の胸ベルトの締め具合を児童と一緒に確認する。「姿勢がまっすぐになっている」ことを児童が実感してから始める。 ・意欲をもって取り組めるように、好きな曲を使い、楽しみながら行えるようにする。	<指導の手立て> ・教師が腰を保持し、腕の力や体幹を意識できるようにする。 ・開始前に、目標距離を設定する場面を設け、児童が自分で決めることで意欲的に取り組めるようにする。
<指導の場面> ・自立活動の時間	<指導の場面> ・自立活動の時間 ・昼休み ・朝の会	<指導の場面> ・自立活動の時間 ・体育

手順5 評価

<評価基準>	<評価基準>	<評価基準>
・教師の声掛けで自分の上肢や手指に入っている力に気付いたり、力を抜いたりしている。	・身体から左腕を離して、動かしている。	・両上肢に力を入れ、手指を伸ばしたままになるように意識して、進んだり、保持したりしている。

## 【資料6】小学部第5学年自立活動学習指導案

### 小学部第5学年自立活動学習指導案

日 時：令和4年9月26日（月）5校時

令和4年9月27日（火）5校時

令和4年9月28日（水）5校時

対 象：岩手県立盛岡となん支援学校

小学部5年4組3名

場 所：小学部5年4組教室、相談室2、  
自立活動室 他

指導者：小笠原春菜（T1）、齊藤香子（T2）、  
高橋容子（T3）

#### 1 題材名「かだいにとりくもう」

#### 2 内容のまとめ

- |                |  |
|----------------|--|
| 自立活動【2 心理的な安定】 | （2）状況の理解と変化への対応に関すること。                         |
| 【3 人間関係の形成】    | （1）他者とのかかわりの基礎に関すること。<br>（3）自己の理解と行動の調整に関すること。 |
| 【4 環境の把握】      | （5）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。                   |
| 【5 身体の動き】      | （4）身体の移動能力に関すること。                              |
| 【6 コミュニケーション】  | （2）言語の受容と表出に関すること。                             |

#### 3 題材の目標

- （1）教師と一緒に学校内を歩くことができる。（児童A）  
【2心（2）】【3人（1）】【5身（4）】
- （2）教師の声掛けを聞いて、活動に取り組むことができる。（児童B）  
【2心（2）】【3人（1）（3）】【4環（5）】
- （3）写真カードと物を対応させることができる。（児童C）  
【2心（2）】【4環（5）】【6コ（2）】

#### 4 題材について

##### （1）児童について

- ア 対象児童は、小学部重複学級5年生3名である。自立活動を主とする教育課程で学習している。
- イ 児童Aは、移動機能障がい、知的障がいを併せ有している。食事や排せつなど、生活全般において介助を必要としている。歩行は、歩き慣れた平坦な道であれば一人で歩くことができる。コミュニケーションについては、呼名されると教師の手に合わせるように手を挙げて触れることができる。自分がしてほしいことを要求する時には、教師に近づき、腕などを触って要求があることを伝えようとすることもある。また、表情や発声で気持ちを表現することができる。
- ウ 児童Bは、移動機能障がい、知的障がいを併せ有している。食事や排せつなど、生活全般において介助を必要としている。移動は車椅子を使用しているが、平坦な道であれば一人で歩くことができる。コミュニケーションについては、日常的に使用するいくつかの単語であれば、聞いて理解することができる。また、自分の要求や気持ちを表情や指さしなどで表現することができる。
- エ 児童Cは、移動機能障がい、知的障がいを併せ有している。食事や排せつなど、生活全般にお

いて介助を必要としている。移動には車椅子を使用し、介助を必要としている。股関節脱臼防止のための外転装具と短下肢装具を着用している。コミュニケーションについては、日常的に使用する言語での指示を理解し、表情や発声で応じることができる。相手を呼んだり、要求を伝えたりする際は、「せんせい」や「ママ」、「ケケ（携帯）」など自分なりの音声言語やサインで伝えようとするができる。

オ 3名とも、これまでの自立活動の指導では、上下肢の粗大運動や体幹・下肢の筋力を高める運動、身体機能の維持・向上や筋緊張を緩めるための体操などに取り組んできた。それぞれ、歩行が安定したり、筋緊張を緩めてリラックスした姿勢を取ったりすることができるようになってきている。

## (2) 指導について

ア 児童Aは、歩き慣れた平坦な場所であれば一人で歩行することが可能だが、障害物や見慣れないものがある場所では慎重になり、歩行に時間がかかることがある。これは、肢体不自由に伴う行動や生活の制限による様々な経験の不足により、初めてのことへの警戒心があるからではないかと考える。また、この警戒心により新しいことへ興味関心をもつことができずにいるのではないかと仮定した。将来の生活場面や保護者の意向を考慮すると、様々な活動を経験していくことで興味関心の幅を広げ、生活を豊かにしていくことが必要だと考える。これまでも学校の教育活動全体において、様々な活動に取り組み経験を積んできている。日常的に使用している教室ではCDラジカセのスイッチに自分から手を伸ばしたり、接し慣れている学級の教師には身体に触れて自分の要求を伝えようとしたりするなど、物や人への警戒心が薄れて、活動の幅が広がってきている様子も見られる。よって、使い慣れた教室以外でも活動の幅が広がることを目指して指導を行うこととし、本題材では、校内を歩く活動に取り組むこととした。併せて、児童が歩く経路に障害物に見立てた教材を配置し、避けたり跨いだりする経験ができるようにすることで、実際の生活場面での歩行につなげられるように展開したい。

イ 児童Bは、歩行が安定してきたことで、教室内や校内を自由に歩くことを楽しんでいる。椅子に座っての活動時に立ち歩き、制止されると泣いたり声を出したりして抵抗することがある。このような様子は、慣れた活動で内容に飽きている場面と活動の内容を理解できずに参加する意欲をもてない場面の二通りの場面で見られるが、多くは飽きている場面だと考えられる。今年度、朝学習として「プリント学習を一枚行うことができれば、大好きなiPadで遊ぶことができる」という流れを体験している。プリントの内容に興味があるときには、意欲的に取り組むことができているが、数日同じ内容が続くと飽きてしまう様子も見られている。よって、「〇〇ができたなら△△ができる」ということを何度も経験することで、見通しをもって活動することができるようになるのではないかと仮定し、本題材では、「学習活動を終われば、iPadでの遊びを行うことができる」という活動の流れを何度も経験するような展開とした。同じ学習内容が続くことで児童が学習意欲を失わないように、様々な教材を工夫して使用していく。

ウ 児童Cは、人との関わりを好み、廊下で会う友達や教員に大きな声で呼びかけたり、グータッチを要求したりして楽しんでいる。一方で、周囲を気にするあまり、自分の活動に集中できなかったり、大きな声で呼びかける際に筋緊張が高まったりするなど、学習面や健康面への影響がみられる。また、日常的に使用する言語での指示を理解したり、帽子をかぶる仕草をして「散歩に行きたい」という自分の要求を伝えたり、「ママ」「せんせい」「ケケ（携帯電話）」などの音声言語で人に呼びかけたりすることができる。しかし、本児に「せんせい」と呼びかけられ、教師が「なあに？」と応じててもその後のやり取りが続かないということも多くあり、呼びかけることは

できるが伝えたいことを伝える方法が分からないのではないかと考えられる。よって、写真や絵カードを使って自分の気持ちを伝えることを目指して指導を行うこととし、本題材では、写真カードと実物を対応させるための活動に取り組む。身近な学級の教師の顔写真と写真カード、帽子や iPad などの実物と写真カードを対応させる活動を行い、日常生活での使用につながるように取り組んでいきたい。

エ 児童3名の指導目標、指導内容がそれぞれ異なるため、活動場所を分けて学習していく。児童が興味をもって意欲的に取り組むことができるように、個に応じた学習内容を設定していく。

### (3) 研究との関わり

本研究では、三つの手立てで研究を進める。手立て1では、肢体不自由教育における教員の専門性に関する調査を行い、教員の専門性の要素を整理する。その調査結果を受け、手立て2として、肢体不自由教育の自立活動における指導について内容を整理し、「自立活動指導資料（試案）」（以下、「指導資料（試案）」という）を作成する。作成した指導資料（試案）は、手立て3として、肢体不自由教育の専門的な視点を踏まえた授業実践を通して、その有効性を検証する。また、得られた意見を基に指導資料（試案）の修正を行う。

指導資料（試案）は、次の構成で作成した。

#### ○第1章 肢体不自由教育の基本的理解

肢体不自由教育に携わる上で必要な専門的な知識及び指導のポイントを示した。

#### ○第2章 自立活動の指導～自立と社会参加を目指して～

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（平成30年）」で示されている個別の指導計画の作成手順の説明や肢体不自由のある児童生徒への具体的指導内容と留意点を整理した。

#### ○第3章 自立活動と各教科の関連～小学部を中心に～

自立活動と小学部の各教科の指導上の留意点や自立活動との関連を示した。

本授業で活用する指導資料（試案）の内容は、次のとおりである。

#### ○第1章 肢体不自由教育の基本的理解

##### (3) 肢体不自由のある児童生徒の特性

状態と区分・項目の関連例 (pp. 4-5)

##### (6) 姿勢や身体の動きについて (p. 14)

##### (7) コミュニケーションについて (p. 15)

#### ○第2章 自立活動の指導～自立と社会参加を目指して～

##### (2) 肢体不自由のある児童生徒の自立活動 (pp. 33-40)

##### (3) 自立活動の指導内容と留意点 (pp. 41-72)

まず、指導資料（試案）の巻末に示した資料1「自立活動の指導における目標設定シート」を活用し、児童の実態把握を行い、指導目標と指導内容を検討する。検討する際は、学級担任・副担任、学部主事、自立活動支援部員を交えた検討会を行い、児童の実態や家庭生活、卒業後の生活など様々な視点から意見を出し合い、現時点で指導すべき課題を抽出し、指導目標を設定する。次に、実践場面を想定し、指導内容及び指導の手立てを検討する。本授業では、指導資料（試案）の活用を通して、肢体不自由教育における専門的な視点を踏まえた授業展開を図ることで、教員の専門性と指導の充実につながるものとする。

5 児童の実態と本題材の評価基準

<児童A>

【区分(項目)】	実態	評価基準
【2心理的な安定(2)】	・狭い通路や見慣れない物がある場所を歩くときには、不安になり、慎重に行動する。	・教師の声掛けを聞いて手すりを掴み、階段を上ることができる。 【2心(2)】【3人(1)】【5身(4)】
【3人間関係の形成(1)】	・学級の教師の呼名に応じたり、自分の要求を身振りで伝えようとしたりするなど、身近な人との信頼関係が構築されつつある。	・教師と一緒に障害物を見たり、触ったりして慣れ、障害物を踏んだりまたいだりすることができる。 【2心(2)】【3人(1)】【5身(4)】
【5身体の動き(4)】	・歩き慣れた平坦な道は、一人で歩くことができる。 ・狭い通路や見慣れない物がある場所を歩くときには、立ち止まったり、一歩を踏み出すまでに時間がかかったりして、移動に時間がかかる。	・教師の声掛けを聞いて手すりを掴み、スロープを降りることができる。 【2心(2)】【3人(1)】【5身(4)】 ・教師と一緒に障害物を見たり、触ったりして慣れ、障害物の間を歩くことができる。 【2心(2)】【3人(1)】【5身(4)】

<児童B>

【区分(項目)】	実態	評価基準
【2心理的な安定(2)】	・活動の切り替え時には、声を出したり泣いたりして、抵抗することがある。 ・慣れた活動でも興味をもてない時には、立ち歩きや抜毛などの不適切な行動がみられることがある。	・提示された3つの課題を理解して、行おうとする。 【2心(2)】【3人(1)(3)】 ・教師の声掛けを聞いて、活動に取り組むことができる。 【2心(2)】【3人(1)(3)】
【3人間関係の形成(1)】	・紙オムツを入れた紙袋を見せながら「トイレに行くよ」と繰り返し伝えることで、紙袋を見せると自分で紙袋を持ち、トイレに向かうことができるようになってきた。	・タイムタイマーを使って、時間の終わりを意識することができる。 【2心(2)】【3人(3)】【4環(5)】
【3人間関係の形成(3)】	・これまでは車椅子に座っての活動が主だった。自分で立ち歩くことが可能になり、椅子に座っての活動に対する逃避的な行動がみられることがある。	
【4環境の把握(5)】	・時間に関する概念の形成が十分に図られていないため、時間によって活動が区切られていることを理解できていない。	

<児童C>

【区分（項目）】	実態	評価基準
【2心理的な安定（2）】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人との関わりを好み、常に周囲を気にしているため、活動に集中できないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の教師の顔写真と写真カードを対応させることができる。</li> </ul> <b>【2心(2)】【4環(5)】【6コ(2)】</b>
【4環境の把握（5）】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・iPadのアプリを活用し、友達の写真を見て、順番に呼名することができる。</li> <li>・写真カードを活用して自分の意思を伝えることや、活動の見通しをもつことは未経験である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水筒、帽子、本、iPadの実物と写真カードを対応させることができる。</li> </ul> <b>【2心(2)】【4環(5)】【6コ(2)】</b>
【6コミュニケーション（2）】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の言語指示を理解したり、自分の意思を自分なりの音声言語やサインで伝えようとしたりする。</li> <li>・人との関わりを求めるあまり、場所や状況に関わらず、大きな声で呼び掛けてしまうことがある。</li> </ul>	

6 展開 (全3時間)

<児童A>

時間	学習活動	・指導上の留意点 ☆支援 ◇評価
導入 5分	1 あいさつ 2 学習内容の確認 ・本時の学習内容を知る	・写真やイラストを用いたカードを提示して、学習内容をイメージしたり、見通しをもったりできるようにする。
展開 35分	3 校内を歩く (1) 階段を上る	☆手すりを掴むように促したり、すぐそばに寄り添うようにしたりして、安心して取り組むことができるようにする。 ◇教師の声掛けを聞いて手すりを掴み、階段を上ることができる。 【2心(2)】【3人(1)】【5身(4)】
	(2) 廊下の障害物を踏んだりまたいだりしながら歩く	☆障害物に気付き、不安な様子が見られたときは、無理に進ませようとせずに、またぐ見本を見せたり、触ってみるように促したりして、不安感を軽減できるようにする。 ◇教師と一緒に障害物を見たり、触ったりして慣れ、障害物を踏んだりまたいだりすることができる。 【2心(2)】【3人(1)】【5身(4)】
	(3) 自立活動室の遊具の中から好きなものを選んで遊ぶ	・自立活動室まで辿り着いたことを称賛し、好きな遊具で遊ぶ時間であることを伝える。 ☆タイマーを使用し、「鳴ったら終わりだよ」と伝えてから始めることで、次の活動にスムーズに移行できるようにする。
	(4) スロープを降りる	☆手すりを掴むように促したり、すぐそばに寄り添うようにしたりして、安心して取り組むことができるようにする。 ◇教師の声掛けを聞いて手すりを掴み、スロープを降りることができる。 【2心(2)】【3人(1)】【5身(4)】
	(5) 障害物の間を歩く	☆障害物に気付き、不安な様子が見られたときは、無理に進ませようとせずに、歩く見本を見せたり、触ってみるように促したりして、不安感を軽減できるようにする。 ◇教師と一緒に障害物を見たり、触ったりして慣れ、障害物の間を歩くことができる。 【2心(2)】【3人(1)】【5身(4)】
	(6) 本を使って、感触遊びをする	・教室まで辿り着いたことを称賛し、本での感触遊びをして良いことを伝える。 ☆タイマーを使用し、「鳴ったら終わりだよ」と伝えてから始めることで、次の活動にスムーズに移行できるようにする。
終末 5分	4 振り返り 5 あいさつ	・児童の頑張っていたところを伝え、達成感をもてるようにする。

<児童B>

時間	学習活動	・指導上の留意点 ☆支援 ◇評価
導入 5分	1 あいさつ 2 学習内容の確認 ・本時の学習内容を知る	・実物を提示しながら学習の流れを伝え、見える位置に置いておくことで、学習内容を意識できるようにする。
展開 35分	3 課題を行う (1) 課題学習をする	・短時間で終わられる課題から始める。児童の様子に合わせ、少しずつ時間が延びるように教材を工夫する。 ☆初めに3つの課題を提示して、すべて終わることができれば、iPadで遊ぶ時間を設けることを伝える。途中で終わようとする様子が見られたときは、「終わったらiPadで遊ぶよ」と繰り返し伝え、iPadを意識して活動できるようにする。 ◇提示された3つの課題を理解して、行おうとする。 【2心(2)】【3人(1)(3)】 ◇教師の声掛けを聞いて、活動に取り組むことができる。 【2心(2)】【3人(1)(3)】
	(2) iPadで遊ぶ	☆タイムタイマーを提示し、終わりの時間を意識できるようにする。 ☆iPadを教師に返却できた時には、称賛し、達成感を味わうことができるようにする。 ◇タイムタイマーを使って、時間の終わりを意識することができる。 【2心(2)】【3人(3)】【4環(5)】
	(3) 課題学習をする	☆もう一度、3つの課題に取り組むこと、課題を終えることができれば、iPadで遊ぶことを伝え、見通しをもって活動できるようにする。 ◇提示された3つの課題を理解して、行おうとする。 【2心(2)】【3人(1)(3)】 ◇教師の声掛けを聞いて、活動に取り組むことができる。 【2心(2)】【3人(1)(3)】
	(4) iPadで遊ぶ	☆タイムタイマーを提示し、終わりの時間を意識できるようにする。 ☆iPadを教師に返却できた時には、称賛し、達成感を味わうことができるようにする。 ◇タイムタイマーを使って、時間の終わりを意識することができる。 【2心(2)】【3人(3)】【4環(5)】
終末 5分	4 振り返り 5 あいさつ	・児童の頑張っていたところを伝え、達成感をもてるようにする。

<児童C>

時間	学習活動	・指導上の留意点 ☆支援 ◇評価
導入 5分	1 あいさつ 2 学習内容の確認 ・本時の学習内容を知る	・写真やイラストを用いたカードを提示し、学習内容をイメージできるようにする。
展開 35分	3 課題を行う (1) 友達の写真カードを選択する  (2) 教師の顔写真と写真カードを対応させる  (3) 実物と写真カードを対応させる	<p>・学級の友達2名と本児童の写真カードを提示し、「〇〇さんはどれ？」と問い掛け、選択するように促す。</p> <p>☆初めに、名前と人物の一致ができていない学級の友達や本児の写真カードを使って練習することで、写真カードを使う学習だということを理解することができるようにする。</p> <p>☆学級の教師3名の顔写真を提示し、顔写真と対応した教師の名前を繰り返し伝え、教師それぞれの名前があることに気付くことができるようにする。</p> <p>・教師の写真カードを提示し、「〇〇先生はどれ？」と問い掛け、選択するように促す。</p> <p>◇学級の教師の顔写真と写真カードを対応させることができる。 【2心(2)】【4環(5)】【6コ(2)】</p> <p>☆児童が好きな活動や興味のある物である水筒や帽子、本、iPadを使うことで、興味をもって活動できるようにする。</p> <p>☆水筒、帽子、本、iPadの実物を提示し、実物と対応した名前を繰り返し伝え、物それぞれの名前があることに気付くことができるようにする。</p> <p>・物の写真カードを提示し、「〇〇はどれ？」と問い掛け、選択するように促す。</p> <p>◇水筒、帽子、本、iPadの実物と写真カードを対応させることができる。 【2心(2)】【4環(5)】【6コ(2)】</p>
終末 5分	4 振り返り 5 あいさつ	・児童の頑張っていたところを伝え、達成感をもてるようにする。

【資料7】小学部第5学年「自立活動の指導における目標設定シート」(児童A)

令和4年度 自立活動の指導における目標設定シート

学部学年	小・中・高	年	氏名	A
教育課程	準ずる	知的代替	自活主	訪問

手順1 実態把握

① 興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

興味・関心 苦手なこと	好きなこと 得意なこと	音楽、本、紙の感触 ラジカセのボタンを押せるようになってきた
	苦手なこと	泣き声
学習や生活の中で 見られる良さと 課題	良さ	要求するときに手を伸ばしたり、教師に触れたりするようになってきた 楽しいときは表情や発声で気持ちを表現できる 繰り返し学習することで、靴を所定の場所に置くことができるようになってきた
	課題	・背中が丸まっている ・歩行の時、すり足のようにして歩く ・初めてのことは苦手 ・物を斜めに見る ・突然の大声や音に反応して、他害をする ・特定の人に他害をする

② 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

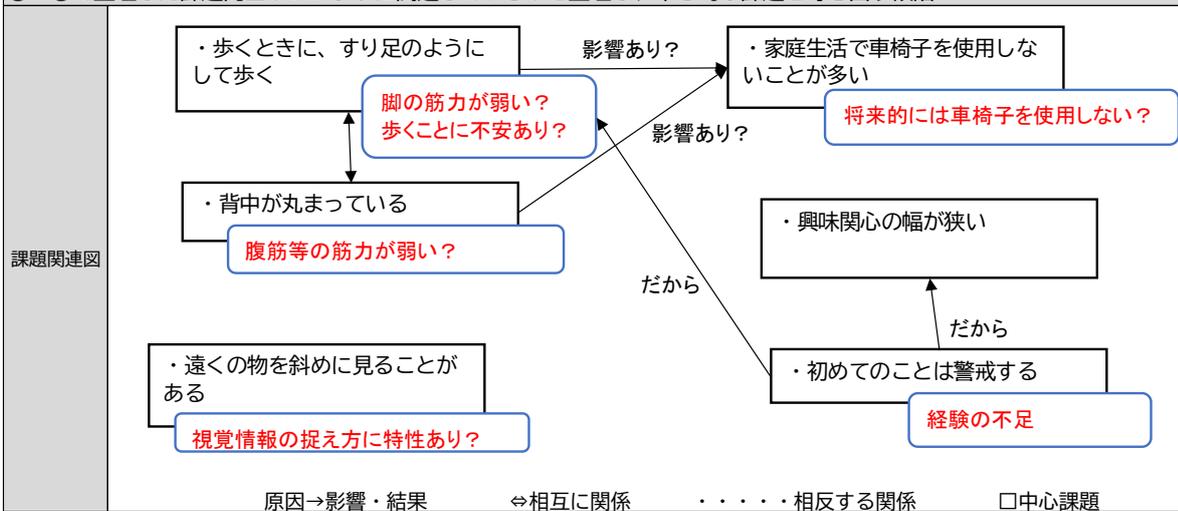
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(5)筋力を維持・向上させる学習をしてきた	(2)泣き声を聞いて気持ちが不安定になる 配慮でOK	(1)興味関心の幅が狭い	(1)遠くの物を斜めに見る	(1)平坦な場所は独歩できる	(1)楽しい気持ちを表情や発声で表現することができる
	(2)気持ちが不安定になると他害行為をする 配慮でOK	(1)自分から物にかかわろうとする意欲がほとんどない できつつある	(2)手のひらや紙をひらひらさせる動きをしている	(1)背中が丸まっている	(1)要求があるときには、手を伸ばしたり、教師に触れたりするようになってきた 般化の段階
	(2)初めてのことは警戒する			(4)筋力の維持・向上のために階段やスロープ昇降を学習してきた	
				(4)歩行のとき、すり足のようにして歩く	
				(4)家庭生活で車椅子を使用しないことが多い	

手順2 課題の抽出と関連の整理

③ ①をもとに②で整理した情報から課題を抽出する段階

・家庭生活で車椅子を使用しないことが多い(身) ・初めてのことは警戒する(心) ・すり足のようにして歩く(身)  
・遠くの物を斜めに見る(環) ・背中が丸まっている(身) ・興味関心の幅が狭い(人)

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階



④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

【指導すべき課題】 (つけてほしい力、これから獲得すべきこと、○年後に向けて今つけた力)  
・教室以外で様々な活動を経験し、活動の幅を広げる。  
(校内のいろいろな場所を歩く経験をする、校内での警戒心が薄くなるのではないかと考える)

### 手順3 指導目標の設定

課題同士の関係を整理する中で今指導する目標として  
⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階

#### 【長期目標】

・教室以外でも安定した気持ちで活動できる。

#### 【短期目標】 \*条件、行動、基準を示す

・教師が声掛けをしたり、手をつないだりすることで校内を歩くことができる。

### 手順4 具体的な指導内容の設定

指導目標を達成するために必要な項目の選定

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。	(1) 情緒の安定に関すること。	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。	(1) 保有する感覚の活用に関すること。	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること。	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること。	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること。	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関すること。	(2) 言語の受容と表出に関すること。
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること。	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること。	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。	(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること。	(3) 言語の形成と活用に関すること。
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。		(4) 集団への参加の基礎に関すること。	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。	(4) 身体の移動能力に関すること。	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
(5) 健康状態の維持・改善に関すること。			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定

⑧ 具体的な項目を関連付ける段階

<p>&lt;指導内容&gt;</p> <p>・教師と一緒に、階段を上ったり、スロープを降りたりする。 (教師と一緒に校内を歩くために【2心(2)】【3人(1)】【5身(4)】を関連付けて設定)</p>	<p>&lt;指導内容&gt;</p> <p>・教師と一緒に障害物をまたいだり、踏んだり、間を通ったりして歩くことができる。 (教師と一緒に様々な歩き方をする経験するために【2心(2)】【3人(1)】【5身(4)】を関連付けて設定)</p>	<p>&lt;指導内容&gt;</p>
<p>&lt;指導の手立て&gt;</p> <p>・安心して取り組めるように、手すりを掴むよう促したり、そばで見守ったりする。</p>	<p>&lt;指導の手立て&gt;</p> <p>・障害物に気づき、不安な様子が見られたときは、不安感を軽減できるように歩く見本を見せたり、触ってみよう促す。</p>	<p>&lt;指導の手立て&gt;</p>
<p>&lt;指導の場面&gt;</p> <p>・自立活動の指導 ・学校の教育活動全体</p>	<p>&lt;指導の場面&gt;</p> <p>・自立活動の指導</p>	<p>&lt;指導の場面&gt;</p>

### 手順5 評価

<評価基準>

・教師の声掛けを聞いて手すりを掴み、階段を上ったり、スロープを降りたりすることができる。

<評価基準>

・障害物を見たり、触ったりして慣れ、障害物を踏んだりまたいだり、障害物の間を通ったりして歩くことができる。

<評価基準>

【資料 8】小学部第 5 学年「自立活動の指導における目標設定シート」（児童 B）

令和 4 年度 自立活動の指導における目標設定シート

学部学年	Ⓜ・中・高 年	氏名	B
教育課程	準ずる	知的代替	自活主 訪問

手順 1 実態把握

① 興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

興味・関心 苦手なこと	好きなこと 得意なこと	音楽、音の出る本・玩具、iPad (iPadは操作できる) 人との関わりを好む
	苦手なこと	活動の切り替え (泣いたり声を出したりして抵抗する) じっとしていること、強制されること
学習や生活の中で 見られる良さと 課題	良さ	興味のあるものに手を伸ばしたり、自分で移動して近づいたりすることができる 要求するときに教師の手を取ったり、指さしをしたりして伝えようとする 興味のあるものには自分から手を伸ばし、つかもうとする ものをつかんだり引っ張ったりする。テープをつまむ、マーカーをもって書くなど手指を使った活動ができる
	課題	自分の思いと違うことには抵抗を示す 朝の会などで座っていると髪を抜いたり、指いじりをしたりする 興味が持てないと立ち歩きをする

② 収集した情報 (①) を自立活動の区分に即して整理する段階

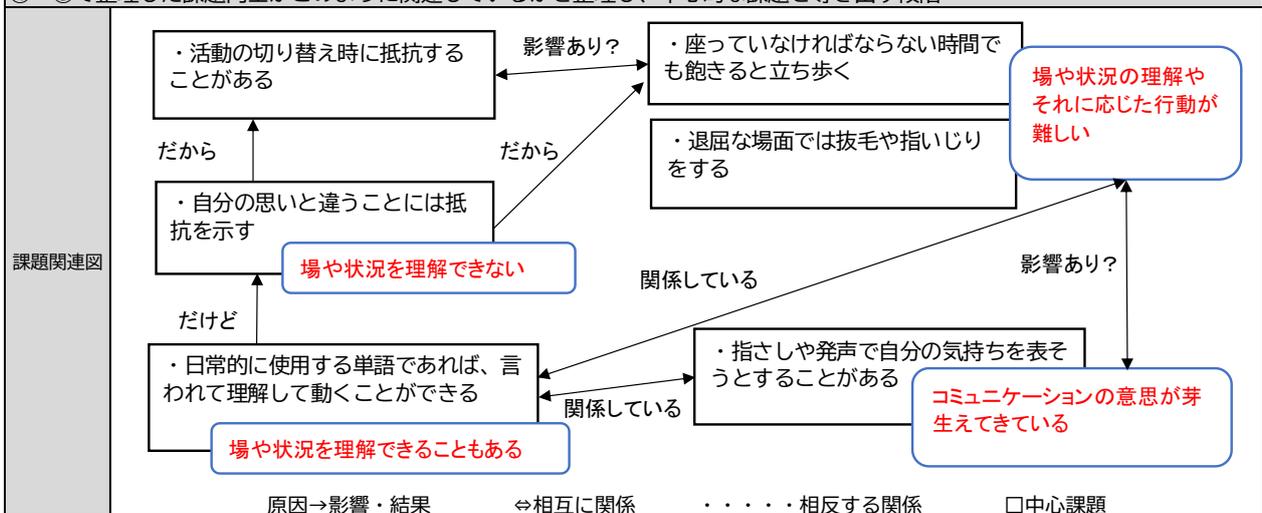
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1)学習活動時に寝ていることがある(服薬の関係?) 減ってきている	(2)活動の切り替え時に抵抗することがある	(4)座っていなければならない時間でも立ち歩く	(1)追視をすることができる	(4)ゆっくりだが、歩行できる	(1)要求するときに教師の手を取ったり、指さしをしたりして伝える
	(2)自分の思いと違うことには抵抗を示す		(4)興味のあるものに手を伸ばしてつかむことができる		(2)指さしや発声で自分の気持ちを表そうとすることがある
	(2)退屈な場面では抜毛や指いじりをする				(2)日常的に使用する単語であれば、言われて理解して動くことができる

手順 2 課題の抽出と関連の整理

③ ①をもとに②で整理した情報から課題を抽出する段階

- ・活動の切り替え時に抵抗を示す (心) ・自分の思いと違うことには抵抗を示す (心)
- ・座っていなければならない時間でも立ち歩く (人)
- ・日常的に使用する単語であれば、言われて理解して動くことができる (コ)

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階



④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

【指導すべき課題】 (つけてほしい力、これから獲得すべきこと、○年後に向けて今つけたい力)  
 ・教師の声掛けを聞いたり、提示されたものを見たりして状況を理解する力  
 (教師の声掛けを聞いたり、提示されたものを見たりして状況を理解できれば、それに応じた行動ができるようになるのではないか)

**手順3 指導目標の設定**

課題同士の関係を整理する中で今指導する目標として  
⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階

【長期目標】  
・教師と一緒に、課題学習に取り組むことができる。

【短期目標】 \*条件、行動、基準を示す  
・「課題3つできたらiPadで遊べるよ」という教師の声掛けを聞いて、課題に取り組むことができる。

**手順4 具体的な指導内容の設定**

指導目標を達成するために必要な項目の選定  
⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階  
⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。	(1) 情緒の安定に関すること。	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。	(1) 保有する感覚の活用に関すること。	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること。	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること。	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること。	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。	(2) 言語の受容と表出に関すること。
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること。	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること。	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。	(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること。	(3) 言語の形成と活用に関すること。
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。		(4) 集団への参加の基礎に関すること。	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。	(4) 身体の移動能力に関すること。	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
(5) 健康状態の維持・改善に関すること。			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

<p>&lt;指導内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を1つ行う。(教師と一緒に課題を1つ行うことに慣れるために【心(2)】【人(1)(3)】を関連付けて設定)</li> </ul>	<p>&lt;指導内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムタイマーで提示された時間、iPadで遊ぶ。(タイムタイマーで時間の終わりを意識するために【心(2)】【人(3)】【環(5)】を関連付けて設定)</li> </ul>	<p>&lt;指導内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の声掛けを聞いて、課題を3つ行うことができる。(教師の声掛けを聞いて、課題に取り組むことに慣れるために【2心(2)】【3人(1)(3)】を関連付けて設定)</li> </ul>
<p>&lt;指導の手立て&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味をもって取り組めるように、課題プリントの内容を工夫する。</li> <li>・課題を終えることができたなら、iPadで遊ぶことができるということを伝えてから始める。</li> </ul>	<p>&lt;指導の手立て&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムタイマーを提示し、時間を意識できるようにする。</li> <li>・立とうとした時は、「座るよ」と声掛けをして、座るように促す。</li> </ul>	<p>&lt;指導の手立て&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めに3つの課題を提示して、すべて終わることができれば、iPadで遊ぶ時間を設けることを伝え、iPadを意識して活動できるようにする。</li> </ul>
<p>&lt;指導の場面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝活動の時間</li> </ul>	<p>&lt;指導の場面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝活動時</li> <li>・自立活動の時間</li> </ul>	<p>&lt;指導の場面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の時間</li> </ul>

**手順5 評価**

<p>&lt;評価基準&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の声掛けを聞いて、課題プリントに取り組むことができる。</li> </ul>	<p>&lt;評価基準&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムタイマーを使って、時間の終わりを意識することができる。</li> </ul>	<p>&lt;評価基準&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提示された3つの課題を理解して、行おうとする。</li> <li>・教師の声掛けを聞いて、課題に取り組むことができる。</li> </ul>
--	---	--

【資料9】小学部第5学年「自立活動の指導における目標設定シート」(児童C)

令和4年度 自立活動の指導における目標設定シート

学部学年	①・中・高 年	氏名	C
教育課程	準ずる	知的代替	①自活主 訪問

手順1 実態把握

① 興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

興味・関心 苦手なこと	好きなこと 得意なこと	・人との関わり ・揺れる(トランポリン、ボール等)遊び ・車椅子を自走すること
	苦手なこと	・教室での活動では、廊下を通る人が気になり自分のことに集中できない ・食堂では、周りの人の姿や音が気になり、食事に集中できない
学習や生活の中で 見られる良さと 課題	良さ	・自分なりの発声やサインで意思を伝えようとする ・日常的に使用する言語での指示を理解している ・両手の平を開くことが難しいが、自分なりに動かして物を操作しようとする ・学級の友達顔写真を正確に見分けることができる ・学級の教師の名前と人物の一致は難しい
	課題	・人と関わりたい気持ちが強く、場や状況に関わらず大声で呼びかけてしまう ・筋緊張が強く、はさみ足の状態になっている ・学級の教師の名前と人物の一致は難しい ・特定のサインや発声以外では、要求を伝えることができない

② 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

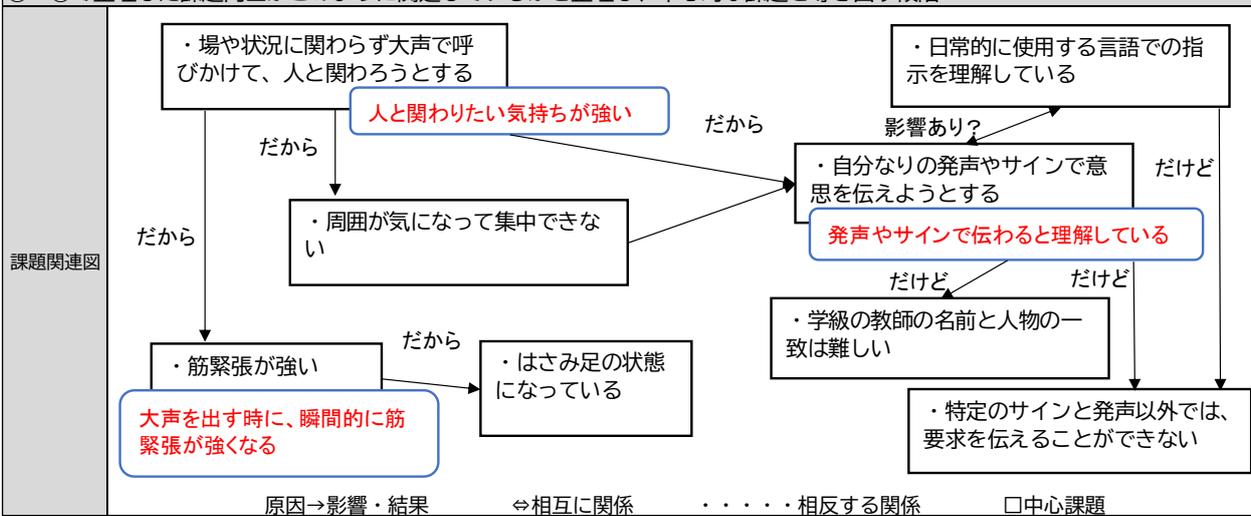
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(3)筋緊張が強く、はさみ足の状態になっている	(2)場や状況に関わらず大声で呼びかけて、人と関わろうとする	(1)学級の教師の名前と人物の一致は難しい		(1)筋緊張が強い	(2)自分なりの発声やサインで意思を伝えようとする
	(2)周囲の様子が気になって、自分のことに集中できない	(1)学級の友達顔写真を正確に見分けることができる		(3)両手の平を開くことが難しいが、自分なりに動かして物を操作しようとする	(2)日常的に使用する言語での指示を理解している
					(3)特定のサインと発声以外では、要求を伝えることができない

手順2 課題の抽出と関連の整理

③ ①をもとに②で整理した情報から課題を抽出する段階

- ・場や状況に関わらず大声で呼びかけて、人と関わろうとする(心)
- ・周囲の様子が気になって、自分のことに集中することが難しい(人)
- ・学級の教師の名前を人物の一致は難しい

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階



④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

- 【指導すべき課題】(つけてほしい力、これから獲得すべきこと、○年後に向けて今つけた力)
- ・誰にでも伝わる方法でコミュニケーションを取ることができる力
  - (コミュニケーションを取る方法が分かれば、過度に関わろうとすることが少なくなるのではないかと考える)

**手順3 指導目標の設定**

課題同士の関係を整理する中で今指導する目標として  
⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階

**【長期目標】**

・絵または写真カードを使って、コミュニケーションを取ることができる。

**【短期目標】 \*条件、行動、基準を示す**

・身近な人やよく使う玩具等の写真カードを使って、話したい人や遊びたい玩具を伝えることができる。

**手順4 具体的な指導内容の設定**

指導目標を達成するために必要な項目の選定

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。	(1) 情緒の安定に関すること。	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。	(1) 保有する感覚の活用に関すること。	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること。	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること。	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること。	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関すること。	(2) 言語の受容と表出に関すること。
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること。	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること。	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。	(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること。	(3) 言語の形成と活用に関すること。
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。		(4) 集団への参加の基礎に関すること。	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。	(4) 身体の移動能力に関すること。	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
(5) 健康状態の維持・改善に関すること。			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定

⑧ 具体的な項目を関連付ける段階

<指導内容>	<指導内容>	<指導内容>
・学級の教師の顔写真と、写真カードを対応させることができる。 (学級の教師の顔写真と写真カードの対応を理解するために【2心(2)】【4環(5)】【6コ(2)】を関連付けて設定)	・水筒、帽子、本、iPadの実物と、写真カードを対応させることができる。 (実物と写真カードの対応を理解するために【2心(2)】【4環(5)】【6コ(2)】を関連付けて設定)	
<指導の手立て> ・初めに、友達や本児童の写真カードを使うことで、写真カードを使う学習だと理解できるようにする。 ・教師の名前を繰り返し伝えてから、名前と対応した写真カードを選択するように促す。	<指導の手立て> ・児童の興味のある物を使用し、興味をもって取り組めるようにする。 ・物の名前を繰り返し伝えてから、名前と対応した写真カードを選択するように促す。	<指導の手立て>
<指導の場面> ・自立活動の時間	<指導の場面> ・自立活動の時間	<指導の場面>

**手順5 評価**

<評価基準>

・学級の教師の顔写真と、写真カードを対応させることができる。

<評価基準>

・水筒、帽子、本、iPadの実物と、写真カードを対応させることができる。

<評価基準>

「特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究（肢体不自由）」に係る質問用紙

＜質問用紙の記入に当たってのお願い＞

●目的

「自立活動指導資料（肢体不自由）」（試案）を活用した授業実践を行い、指導資料の検証を行います。得られた結果を基に、「自立活動指導資料（肢体不自由）」（試案）を修正し、完成を目指します。

●質問の回答について

この質問用紙は、小学部、中学部、高等部の教諭、講師、非常勤講師の先生方が御回答ください。なお、授業を参観できなかった先生方にも御回答をお願いいたします。

●調査結果の取扱いについて

- （1）当該研究において調査結果を活用します。
- （2）調査結果は、研究報告書、教育研究発表会等で公表します。
- （3）公表に当たっては、特定の個人を識別することはありません。

●提出方法、締め切り

調査用紙は、9月30日（金）までに、各学部研究部員に提出をお願いいたします。

授業実践①、②の両方を参観した先生	全ての問いに御回答ください。
授業実践①（小学部2年）のみを参観した先生	全ての問いに御回答ください。
授業実践②（小学部5年）のみを参観した先生	全ての問いに御回答ください。
授業を参観できなかった先生	p. 3の問3と問4に御回答ください。



当てはまる項目に、チェック（レ点）をお願いします。

本研究に係る授業を参観していただき、ありがとうございました。

授業で活用した「自立活動指導資料（肢体不自由）」（試案）について、改善点や工夫点等、御意見を伺い、資料の修正のため、参考にさせていただきます。御協力をよろしくお願いいたします。

**問1** 授業実践①、②で活用した「自立活動指導資料（試案）」の「第1章 肢体不自由教育の基本的理解（3）肢体不自由のある児童生徒の特性、（5）感覚と認知について、（6）姿勢や身体の動きについて、（7）コミュニケーションについて」は、肢体不自由教育の専門的な視点や内容が分かりやすく示され、授業づくりで活用できるものになっていますか。次の（ア）～（エ）から、あてはまるものに○を付け、その理由も御記入ください。

	（ア） になっている	【理由】
	（イ） やや になっている	
	（ウ） あまり になっていない	
	（エ） になっていない	

**問2** 授業実践①と②で活用した「自立活動指導資料（試案）」の「第2章 自立活動の指導～自立と社会参加を目指して～（2）肢体不自由のある児童生徒の自立活動、（3）自立活動の指導内容と留意点」は、肢体不自由教育における自立活動の指導の基本的事項や目標設定シート作成・活用の手順が分かりやすく示され、授業づくりで活用できるものになっていますか。次の（ア）～（エ）から、あてはまるものに○を付け、その理由も御記入ください。

	（ア） になっている	【理由】
	（イ） やや になっている	
	（ウ） あまり になっていない	
	（エ） になっていない	

問3 「自立活動指導資料（肢体不自由）」（試案）全体を通して、改善してほしい点や工夫を要する点がありましたら、御記入ください。

問4 自立活動の授業以外に、今後どのような場面で「自立活動指導資料（肢体不自由）」を活用してみたいと思いますか。次の（ア）～（ケ）から、あてはまるものに○を付けてください。他に考えられるものがある場合は、御記入ください。（複数回答可）

	（ア） 子供の実態把握
	（イ） 個別の指導計画や年間指導計画の立案
	（ウ） 各教科等での指導（教科等を合わせた指導）
	（エ） 校内研修
	（オ） 校内研究
	（カ） 新任者研修
	（キ） 相談支援や教育相談
	（ク） 進路指導
	（ケ） 保護者や各関係機関との連携

【その他】

御協力ありがとうございました。

【資料 11】「自立活動指導資料（肢体不自由）」（試案）に関する調査結果

【どの授業実践を参観したか】

授業実践①、②の両方	授業実践①（小2）のみ	授業実践②（小5）のみ	参観できなかった	未回答
8人	6人	3人	64人	15人



問1 授業実践①、②で活用した「自立活動指導資料（試案）」の第1章は、肢体不自由教育の専門的な視点や内容が分かりやすく示され、授業づくりで活用できるものになっているか（n=19）（原文ママ）

(ア) なっている	(イ) ややなっている	(ウ) あまりなっていない	(エ) なっていない
14人	4人	1人	0人

(ア) なっている の理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・(3) の特性では、ポイントが示されている。(5)～(7) では項目ごとに解説があるので。また、児童生徒の状態(例) と関連項目、指導内容(例) が示されているので。</li> <li>・専門的な言葉の解説もあり、どんなことが重要で、そのためにどんなことが必要かが細かく示されているので、指導に生かしやすい。</li> <li>・特に感覚と認知についての説明は、子どもの感覚や考え方を知る上で必要なことだと思っている内容であったから。</li> <li>・分かりやすく示され、指導内容も明確であり、具体的な指導について検討しやすいから。また、他の区分(項目) との関連も見やすくなっている。</li> <li>・授業をつくる時に、詳しく書かれてわかりやすいです。</li> <li>・試案の資料全体が、情報量が多くなりすぎず読みやすい。</li> <li>・児童生徒の特性の一覧が見開きになっているため、とても見やすい。</li> </ul>
(イ) ややなっている の理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすく、項目に分かれていて、読んでみようという気になる。</li> <li>・授業作りよりも実態把握や行動の分析に使えるかなという印象です。</li> </ul>
(ウ) あまりなっていない の理由
(記載なし)

問2 授業実践①と②で活用した「自立活動指導資料（試案）」の第2章は、肢体不自由教育における自立活動の指導の基本的事項や目標設定シート作成・活用の手順が分かりやすく示され、授業づくりで活用できるものになっているか（n=19）（原文ママ）

(ア) なっている	(イ) ややなっている	(ウ) あまりなっていない	(エ) なっていない
14人	5人	0人	0人

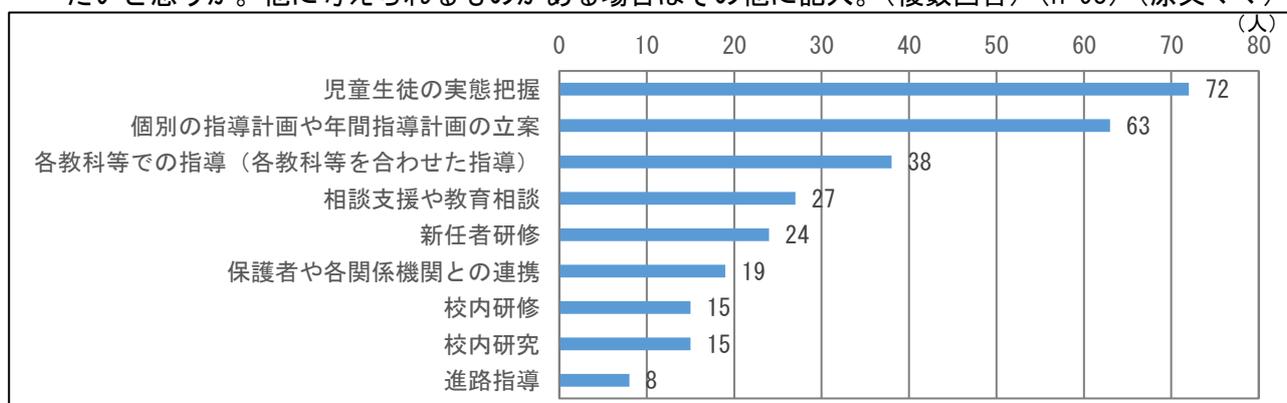
(ア) なっている の理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・(2) では、手順が1～5のように示されていて、それぞれチェック項目があるので。評価シートの例が示されているので。(3) では、関連する他の項目がわかるように表に整理されているので。</li> <li>・短期目標設定のポイント、どの項目と関連があるか等わかりやすく示されていた。</li> <li>・障害が重複している児童生徒が多いので、担当する児童生徒の実態と照らし合わせて検討することができるため。</li> <li>・指導書がない肢体不自由教育において、どう組み立てていったらいいかわかりやすく書かれています。</li> <li>・(3) の一覧が参考にしやすい。‘本項目の指導の留意事項’ が共通認識をもって、項目について考えられるようになって良いと思う。「チェック」マークで文言のかくにんがするのも良い。</li> </ul>
(イ) ややなっている の理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・活用し慣れれば使いやすそうと思います。</li> <li>・例えばで脳性まひの子の実態の目標設定シートや評価シートの使用例があるとよりわかりやすいと感じました。</li> <li>・「目標設定シート」は児童一人一人について記入するにはとても細かく、担任の負担が大きいと感じた。ただし、授業づくり、一人一人の目標を考える上ではとても有効。</li> </ul>

**問3 「自立活動指導資料（肢体不自由）」（試案）全体を通して、改善してほしい点や工夫を要する点（n=33）（原文ママ）**

- ・指導内容と留意点、表の一番左、「障害等」のところに疾病名があるところ。（障害と疾病について）本校でもこの違いが分かっていない職員もいるので、分かるようにした方がよいのでは？
- ・2章の【チェック】はポイントなのでしょう。ヒントになりますか？ここを読めばより詳しく分かるということですか？はじめには、チェックとしかなくてももう少し説明か名称を変えるかするとよいかも…。
- ・3章で【チェック】のあとに p.15 参照となっています。このチェックの違いは？レ（チェック）は、自立活動との関連？（はじめににある点線囲い（自立活動との関連）はなし？表に関連する他の項目とあるからでしょうか？はじめにでももう少ししっかり説明できるように表記や項目なのかの表現が明確だと良いのではないのでしょうか。
- ・摂食指導について、食器・食具などイラスト、写真など入れてみてはどうでしょうか。または文字による食器・食具など。
- ・特になし→（良いところ）チェックとふき出しの内容がポイントをおさえていて分かりやすい。〇〇より抜粋がその都度かいてあるので、もっとくわしく知りたい時に探しやすい。
- ・ささいなことですが、看護師と看護職員の使い分けを。
- ・特になし
- ・特にありませんでした。とても分かりやすく大変勉強になりました。
- ・はじめにの部分で3つの構成についての枠を提示して、本文の中に入れたのは見やすく良かった。参照と合わせることでより理解しやすいと思う。
- ・すみません。資料が多くゆっくり読めませんでした。
- ・OT、ST、PTはあくまで医師の指示が基本になると思いますので、配慮が必要だと思います。
- ・脳室白質周囲軟化症の児童生徒の学習障害的な傾向や言語性の特徴、精神的な不安定さなどについて相談がある。障害の理解について記述が欲しいと思う。
- ・分かりやすかったです。
- ・p.14 臥位の種類各々のイラストがあった方がよい。
- ・p.24「自立活動の時間に充てる授業時数」各学校の実態に応じてカリキュラムに位置づけるとともに、教育活動全般で行われるものではなかったでしょうか？説明の文章を再考した方がよい。
- ・p.41～（3）自立活動の指導の内容及び留意点にある各障害（視覚、聴覚、知的）のところは古い情報もあるので、経験のある教員に聞いてみて下さい。
- ・ほとんど文字なので、写真やイラストを使用した方がわかりやすい。
- ・デジタル化して、目次にリンクをはってほしい情報にアクセスしやすくなるとうれしい。
- ・「自立活動の指導における目標設定シート」を昨年度の研究で作成してみたが、作成に時間もかかり難しかった。関連図も正直どう作成すればいいか、中心的な課題を導きだすことはできなかった。作成することで、個別の指導計画に生かすことができればいいが活かさないで作って終わりにしてしまうのではないかと思う。
- ・昨年やってみて、課題関連図に関して、生徒1人に対して作成するのに時間も必要とし、なかなか難しかった。課題の導きもできないように思った。これを担任が決められた時間内で作ることも、また生かすことも難しいと思う。
- ・摂食指導について、もう少し詳しくページを割いてもよいと思う。
- ・的外れな意見かと思いますが、一応書きます。児童生徒が（指導）目標をどのように捉えているのか、確認できる子はその目標に向かって一緒に進んでいけるのではないかと思います。
- ・特にありません。
- ・大丈夫だと思います。お疲れ様です。
- ・特にありません。
- ・やらなければいけない事と、実際にできる事に大きな隔たりがありすぎる。その事を校長や教務が理解して担任や教科担当者の負担が少ないようにする方法を考えたいが、研究部だけでは難しい事が分かった。
- ・なし
- ・もし可能であれば、実物の写真などが増えるとより分かりやすいと思いますが、今も充分読みやすいです！
- ・特になし
- ・参考文献を記述してほしいです。
- ・進路指導について、小学部の時点で身に付けたい内容を具体的に示せると特別支援の小学部教員の進路に対する意識がもっと向上すると思いました。
- ・全体的に肢体不自由教育の専門性の向上と指導の充実についてまとまっていると感じました。お疲れ様でした。
- ・特になし

- ・高等部準ずるグループの自立活動の授業にいつも悩んでおります。身体以外にも人間関係、行動の調整などどのように指導していけばいいか模索しています。高等部年齢期での指標になるもの、具体的事例が不足しているように思います（全国的にも）。
- ・特になし
- ・ICTのページについて、使用している様子（付け方、操作方法を簡単に）があるとすぐに活用にもっていかけて良いのかなと思いました。
- ・（感想です）じっくり読む時間がなくすみません。でも、解説よりわかりやすいと思いました。特に昨年の研究で行った部分もあり、わかりやすく思いました。
- ・見やすくわかりやすかったです。後半も図や絵があるとうれしいです。
- ・良いと思います。
- ・ありません。
- ・他県の取り組みや実践例など紹介するURL集があると、より読み手に有益かと思いました。

**問4** 自立活動の授業以外に、今後どのような場面で「自立活動指導資料（肢体不自由）」を活用してみたいと思うか。他に考えられるものがある場合はその他に記入。（複数回答）（n=93）（原文ママ）



その他

- ・感想ですが、すごく広い知識が必要だとあらためて認識しました。自立活動の指導内容の組み方というよりも、どれだけ背景となる情報があるのか、それを知ってやっと自立活動の中心課題が分かってくるのか。根本の大切な所が知れるなと思いました。
- ・p. 48 自信を持つ→もつ
- ・p. 49 「大切である。」と「大切。」（があるので、）統一した方がよいかもかもしれません。
- ・p. 30（吹き出しの中）「教科の目標」→教科等の目標
- ・わかっているようで「これってどういうことなのだろう…？」となることも多く、そんなときに読めると安心できるし、他の方（先生や保護者さん）との共有もしやすいなと感じました。（とても読みやすかったです！）
- ・見てわかりやすく良い資料になっていると思います。作成ありがとうございます。
- ・自立活動に関わる校内研究を行いたい。
- ・肢体不自由の理解は特にもとんな支援学校の新任者にはわかりやすいと思います。
- ・医療連携のための資料として必要だと思う。
- ・資料の内容が多岐にわたっており、読みごたえあると感じました。今回の件とは別ですが、校内での研究を通して感じることは、Ⅲグループ相当の肢体不自由のための学習指導要領があると指導しやすいのに…と思いました。近いものを感じたので書かせてもらいます。
- ・研究のまとめの課題にも出ていたように思うが、時間をどう確保するか or もっと簡易にとりくめる方法がないかなど思いました。
- ・専門性の向上に役立つ良い資料だと思います。他校から転勤し、不安があるのが正直なところですが、こういった資料が、その学校での力になります。
- ・障がいの分類や指導の場面ごとに説明がされているため、子どもたちの現状にあてはめて考えやすかったです。